

# 津市立成美小学校普通教室空調設備設置工事

## 図面リスト

		機械設備工事		電気設備工事	
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
M - 1	特記仕様書 1	M - 15	配置図・仮設計画図	E - 1	電気設備 特記仕様書 1
M - 2	特記仕様書 2	M - 16	1階平面図・仮設計画図	E - 2	電気設備 特記仕様書 2
M - 3	空調設備 配置図	M - 17	2階平面図・仮設計画図	E - 3	電気設備 特記仕様書 3
M - 4	空調機器表・参考要領図	M - 18	3階平面図・仮設計画図	E - 4	配置図
M - 5	空調設備 1階平面図	M - 19	断面詳細図（管理教室棟）	E - 5	動力制御盤表
M - 6	空調設備 2階平面図	M - 20	断面詳細図・建具表（管理教室棟）	E - 6	空調電源設備 1階平面図
M - 7	空調設備 3階平面図	M - 21	断面詳細図・建具表（教室棟）	E - 7	空調電源設備 2階平面図
M - 8	断面詳細図（管理教室棟）1	M - 22	1階天井伏図	E - 8	空調電源設備 3階平面図
M - 9	断面詳細図（管理教室棟）2	M - 23	2階天井伏図		
M - 10	断面詳細図（教室棟）	M - 24	3階天井伏図		
M - 11	屋外機廻り外構図 1	M - 25	外構図 1		
M - 12	屋外機廻り外構図 2	M - 26	外構図 2		
M - 13	自動制御設備 1階平面図				
M - 14	空調設備 2階平面図（撤去図）				

アルテック設計

津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602

一級建築士 第177266号

伊藤 公智

DRAWING BY  
DATA

原図：A2

津市立成美小学校普通教室  
空調設備設置工事



※ 横走り管の吊り間隔

鋼管	100A以下 125A以上	— —	2m 以下 3m 以下
ビニル管 耐火二層管 鋼管	80A以下 100A以上	— —	1m 以下 2m 以下
鉛管			1.5m以下
鋼鉄管	標準図による		

※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔

支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下
鋼管	—	50A~100A	125A~
鋼鉄管			
ビニル管 耐火二層管 鋼管	25A~40A	50A~100A	125A~

※ 冷媒用銅管の横走り管の支持間隔

基準外径 9.52mm 以下 吊り間隔 1.5m以下 ※ 液管・ガス管共吊り場合は  
基準外径 12.70mm 以上 吊り間隔 2.0m以下 液管の外径を基準とする。  
形鋼振れ止め支持間隔は、鋼管に準ずる。

(2) ダクト工事

- 矩形ダクト □ 亜鉛鉄板 JIS G 3302 (SGCC, SGCCA) 鍍金付着Z18以上  
□ ステンレス鋼板 JIS G4305  
工法 □ アンクルフランジ工法  
□ 平板フランジ工法  
□ スライドオンフランジ工法  
形鋼補強 □ 山形鋼 JIS G 3101 □ SUS鋼材 JIS G 4317  
丸ダクト □ スパイラルダクト  
□ 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管 (多湿箇所) AS-62 (RS-VU)

(3) 保温塗装工事

- 1) 材料 部分的に材料を変更する場合は、図面に明記すること。  
□ グラスウール保温材 保温筒 JIS A 9504 2号 40K (屋内一般等) 保温板 保温帯 JIS A 9504 2号 40K  
□ 給水管 □ 排水管 □ 給湯管 □ 温水管  
□ 蒸気管 □ 冷水・冷温水管 □ 冷媒管 □ 消火管  
(屋外等)  
□ 給湯管 □ 温水管 □ 蒸気管 □ 冷水・冷温水管  
□ 冷媒管 □ □ □ □

- ロックウール保温材 保温板、保温帯、ブランケット (防火区画貫通部等) 1号JIS A 9504  
□ 給水管 □ 排水管 □ 給湯管 □ 温水管  
□ 蒸気管 □ 冷水・冷温水管 □ 冷媒管 □ 消火管

- ポリスチレンフォーム保温材 保温筒 JIS A 9511 3号 (屋内一般等) 保温板 JIS A 9511 3号  
□ 給水管 □ 排水管 □ 冷水・冷温水管 □ 冷水管 (2~4℃)  
□ プライン管 □ □ □ □  
(屋外等)  
□ 給水管 □ 排水管 □ 給湯管 □ 冷水・冷温水管  
□ プライン管 □ 消火管 □ □ □ □

- 鋼合ベント塗り塗料 JIS K 5516 (合成樹脂鋼合ベント) 1種 (露出)  
□ 給水管 □ 排水管 □ 通気管 □ ドレン管  
□ ガス管 □ 消火管 □ 油管 □ 冷却水管

2) 保温厚

- ・ グラスウール、ロックウール  
保温厚 (mm)  
給水・排水・ドレン・給湯 ~80A 100~150A - 200A~ -  
膨張・温水・消火管  
蒸気管 ~25A - 32~50A 65A~ -  
冷水・冷温水・冷媒管 - - ~25A 32~200A 250A~

- ・ ポリスチレンフォーム  
保温厚 (mm)  
給水・消火・排水管 ~80A 100A~ - - -  
冷水・冷温水管 - - ~25A 32~200A 250A~ -  
冷水管 (冷水温度2~4℃) - - ~20A 25A~100A 125A~ -  
プライン管 - - - ~25A 32~80A 100A~

- ・ 機器ダクト保温厚  
保温厚  
25mm ダクト(屋内露出 [機械室、書庫、倉庫]、隠蔽部)、消音チャンパー・エルボ 膨張タンク、鋼板製タンク、排煙ダクト隠蔽部(ロックウール)  
50mm ダクト(屋内露出 [一般居室、廊下])、サブライチャンパー、貯湯タンク類 冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー 排気筒隠蔽部 (ロックウール)  
75mm 煙導 (ロックウール)

3) 種別

給排水衛生設備配管の保温仕様

	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	原紙	7Aシグ'ラX02仕上
天井内・P S内	アルミガラスクロス化粧テープ			
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色7Aシグ'ラX02仕上
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上

※ 1) 排水管については、上表暗渠内 (ピット内) の仕様を防食テープ巻きに読み替える。  
※ 2) サヤ管工法: 架構ポリエチレン・ポリブテン管使用の場合は、上表保温不要。  
※ 3) 消火管の外側露出の保温を行う。

空調設備配管の保温仕様 (R、G保温材の仕様のみ)

	1	2	3	4	5
屋内露出	保温筒	鉄線	アルミガラスクロス化粧テープ	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	アルミガラスクロス化粧テープ	原紙	アルミガラスクロス仕上
天井内・P S内 (温水・蒸気管以外)	保温筒	鉄線	アルミガラスクロス仕上		
暗渠内 (ピット内)	保温筒	鉄線	アルミガラスクロス仕上		
屋外露出	保温筒	鉄線	アルミガラスクロス仕上		

※ 1) 冷媒管に断熱材被覆鋼管を使用した場合の保温種別  
■ 保温化粧ケース仕上 ■ ポリスチレン成形の上、SUS鋼板仕上 (屋外露出部分)

機器保温仕様

	1	2	3	4	5
冷水・冷温水タンク					
鋼板製タンク	鉄	保温板	ポリエチレン	鉄線	SUS鋼板仕上
冷水・冷温水ヘッダ			フィルム		カラー鉄板 (屋内)
温水・膨張・環水 貯湯タンク	鉄	保温板	鉄線		SUS鋼板仕上
温水・蒸気ヘッダ 熱交換器					カラー鉄板 (屋内)

※ 1) 密閉式膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンパー・煙道 保温仕様

		1	2	3	4	5
長方形ダクト	屋内露出	一般・廊下	鉄	保温板	カラー鉄板	
	機械室		鉄	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス化粧テープ	
	屋内隠蔽、D S内		鉄	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス化粧テープ	
	屋外露出、多湿箇所		鉄	保温板	ポリエチレンフィルム	鉄線 SUS鋼板
スパイラ	屋内露出	一般・廊下	保温帯	鉄線	カラー鉄板	
	機械室		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス化粧テープ		
ルダ	屋内隠蔽、多湿箇所		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス化粧テープ		
クト	屋外露出、多湿箇所		保温帯	鉄線	ポリエチレンフィルム	鉄線 SUS鋼板
サブライチャンパー			鉄	保温板	ガラスクロス	亜鉛メッキ鋼
消音チャンパー、エルボ			鉄	保温板	ガラスクロス	
排煙ダクト長方形	屋内隠蔽	鉄	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス化粧テープ		
排煙ダクト 円形	屋内隠蔽	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス化粧テープ			
煙道	ブランケット	鉄線		カラー鉄板		

※ 1) 排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、1号を使用。  
※ 2) 煙道ブランケットは、JIS G 3554 (亀甲金網) による亜鉛メッキ鋼板を使用した網目16径径0.55 による防錆処理を施したプラス0号で外面補強したものを使用。  
※ 3) 銅亀甲金網は、JIS H 3260 網目10、線径0.5

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様

機材	状態	塗料の種別	塗り回数			備考
			下塗り	中塗り	上塗り	
白管	露出	鋼合ベント	1	1	1	下塗りはさび止めベント
黒管	露出	鋼合ベント	2	1	1	下塗りはさび止めベント

※ 1) わじ切りした部分の鉄面は、さび止めベント2回塗りをを行う。

4) 施工

ダクト保温施工範囲

- S A  
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( )
  - E A  
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( )
  - R A  
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( )
  - O A  
□ 保温あり □ 保温なし □ 図面による □ その他 ( )
- チャンパー内貼施工  
□ 内貼あり ( mm ) □ 内貼なし □ 図面による □ その他 ( )

(4) スリーブ工事

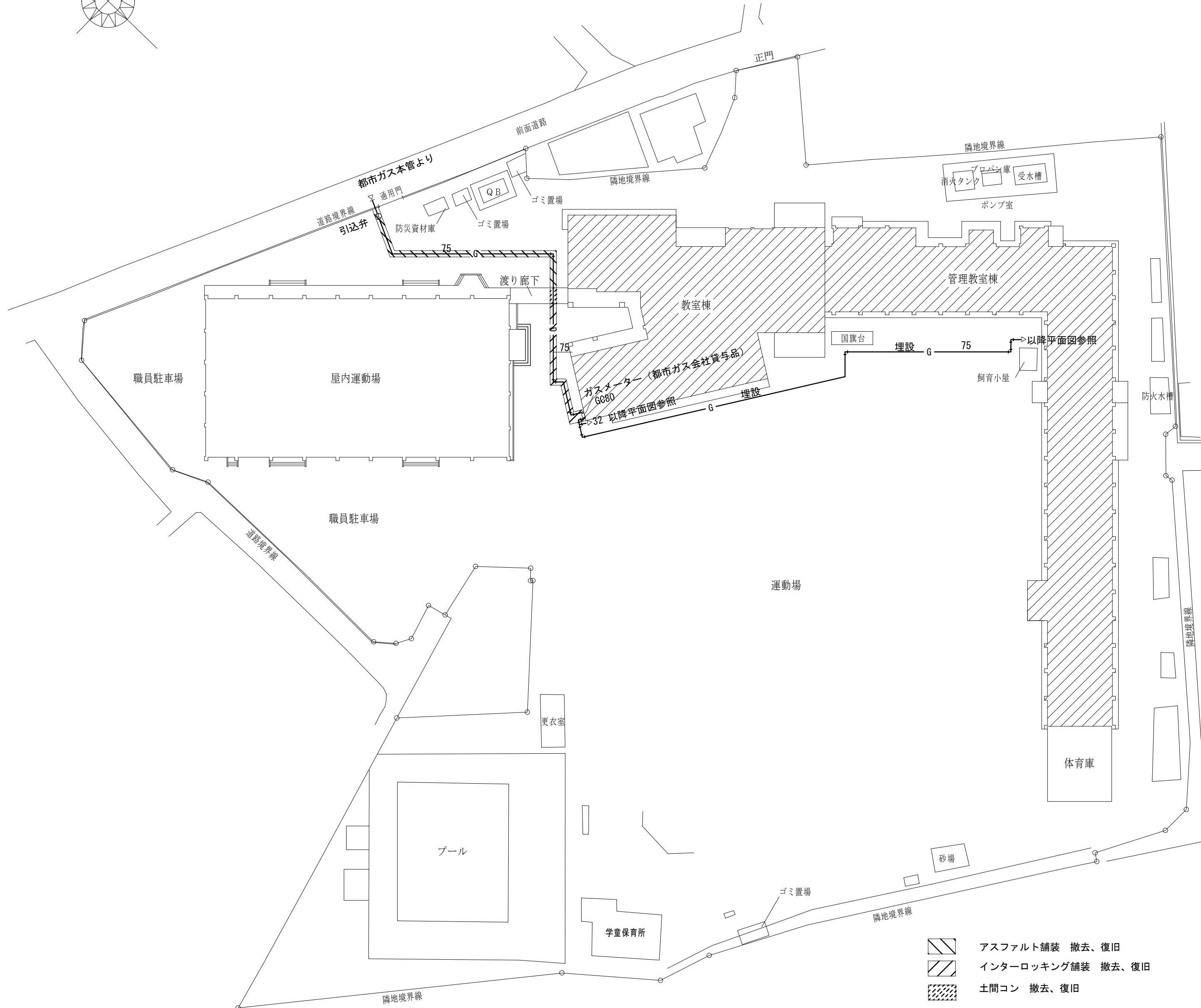
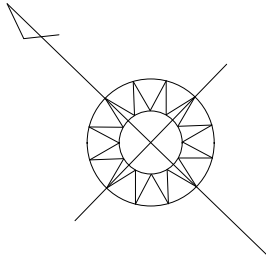
- 管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む) より40mm程度大 (=2サイズUP) なるものとする。  
霜抜きスリーブは、木枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。
- 地中部分のスリーブは、塩化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。
- その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、配管前に必ず撤去のこと。





共通事項

- 陸上ポンプ、送排風機 (エアハン含む) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。
- 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。
- 系統が分かるように、必要箇所 (機械室、P S内等) に文字書き・矢印記入・バルブ札取付を行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。
- 機器・配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。
- 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りのドレン管に接続すること。
- 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造鉄筋より取り出す、もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、標準仕様書、機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあつてはアンカー工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。
- 機器、配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書・標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮すること。
- 雨がかり部に取り付けるガラのチャンパーには、水抜きを設けること。
- 屋外埋設管 (給水、消火、ガス) には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、地中埋設標を施工すること。
- 冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。
- 水栓は、節水機構付きのものを使用すること。
- 冷媒管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて防火処理を行うこと。
- 地中埋設配管については、下記の低下対策を講ずること。
  - 管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をもたせる。
  - 接続箇所は必要に応じてコンクリートで保護する。
  - 土間筋は、土間筋に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。
  - 呼び径100A以下はM10、125A~250AはM12、250A以上はM16のステンレス棒鋼を使用する。
- 屋外露出及び多湿箇所 (トレンチピット等) の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。
- 屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。
- 合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊巻の取り付けを行うこと。
- 送風機用ベルトカバーには点検口を設けること。
- 建設発生土は場外自由処分とすること。

※ 特記事項

- 工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。
- 現場作業着手までの敷地内調査は、事前に施設関係者及び市監督員の承諾を得るものとし、また休日等の行事に影響を与えない範囲とする。
- 工事作業については、工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。
- 工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。
- 本工事に於ける諸管理への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響のないよう努めること。
- 工事期間中、現場内入場者、近隣関係者へ危害を与えないよう注意し、かつ周辺道路等に資材を落させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。
- 安全対策として、作業範囲にはコーンバー等を設置すること。
- 側溝、樹等は車両通行時に破損しないよう、鉄板敷き等で養生すること。
- 工事車両の出入りについては、昼下校時間を避け安全確保に十分配慮すること。
- 大型車両進入時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全確保に配慮すること。
- 工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。
- 特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき、関係機関への届出打合せの上、作業に着手することとし、また、周辺住民からの苦情があった時は、仕事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承諾を得てから行うこと。
- 工事着手前には、現状状況把握のために破損箇所等があれば、市監督員の立会のもと写真等に記録しておくこと。また、工事過程において、既存施設に破損等を与えた場合は、工事受注者の負担において速やかに復旧すると共に、市監督員に報告をすること。
- 本工事の現場施工にあたっては学校運営に支障のないように、土日祝日等休日に施工を行うようにすること。ただし、平日であっても授業等に影響のない範囲に限り施工を行うことを認める。
- 設計書に明記なくとも、機能上及び構造上当然必要と認められるものは本工事に含む。なお、内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。



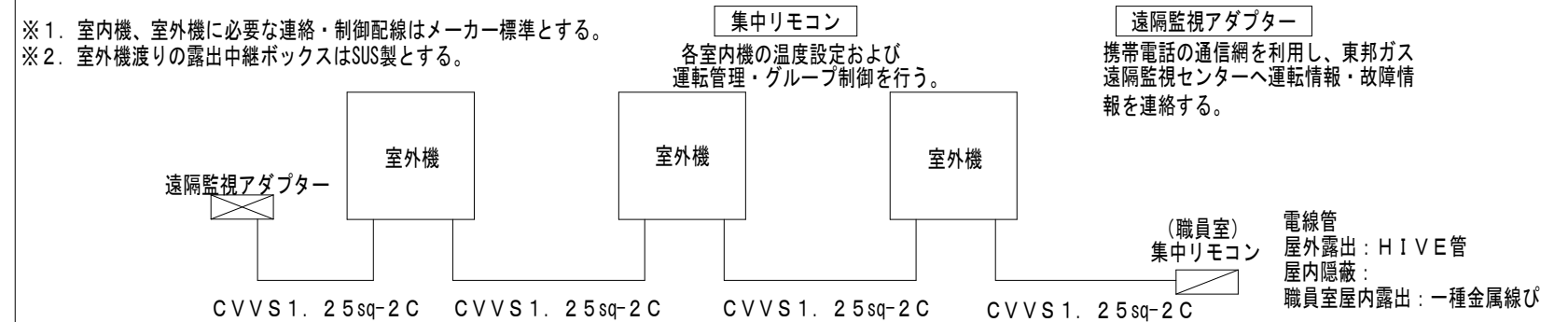
-  アスファルト舗装 撤去、復旧
-  インターロッキング舗装 撤去、復旧
-  土間コン 撤去、復旧
-  工事対象範囲

配置図 S: 1/500

空調機器表

記号	機器名	機器仕様	電源容量			台数	設置場所	備考
			φ	V	エンジン kW			
GHP 1	ガスヒートポンプ式	形式 都市ガス13A仕様 屋外機	3	200	12.4	1	管理教室棟 屋外	臭気触媒付
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 56.0 kW	消費	冷房	1.24			
		暖房能力 63.0 kW	電力	暖房	0.74			
		付属品 SUS304製吹出方向変更フード						
GHP 1-1	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.08 (FAN)	3	管理教室棟 2F普通教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 16.0 kW	消費	冷房	0.103			
		暖房能力 18.0 kW	電力	暖房	0.103			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						
GHP 2	ガスヒートポンプ式	形式 都市ガス13A仕様 屋外機	3	200	18.8	1	管理教室棟 屋外	臭気触媒付
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 85.0 kW	消費	冷房	1.80			
		暖房能力 95.0 kW	電力	暖房	1.80			
		付属品 SUS304製吹出方向変更フード						
GHP 2-1	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.04 (FAN)	2	特別支援教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 8.0 kW	消費	冷房	0.042		ひまわり ばら	
		暖房能力 9.0 kW	電力	暖房	0.042			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						
GHP 2-2	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.08 (FAN)	3	普通教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 16.0 kW	消費	冷房	0.103		5-月 5-雪 5-花	
		暖房能力 18.0 kW	電力	暖房	0.103			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						
GHP 3	ガスヒートポンプ式	形式 都市ガス13A仕様 屋外機	3	200	12.4+12.4	1組	管理教室棟 屋外	臭気触媒付
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 56.0+56.0 kW	消費	冷房	1.24+1.24			
		暖房能力 63.0+63.0 kW	電力	暖房	0.74+0.74			
		付属品 SUS304製吹出方向変更フード						
GHP 3-1	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.04 (FAN)	4	特別支援教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 8.0 kW	消費	冷房	0.042		すみれ もも	
		暖房能力 9.0 kW	電力	暖房	0.042			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						
GHP 3-2	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.08 (FAN)	4	普通教室2-月	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 16.0 kW	消費	冷房	0.103		普通教室2-雪	
		暖房能力 18.0 kW	電力	暖房	0.103		特別支援教室	
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						
GHP 4	ガスヒートポンプ式	形式 都市ガス13A仕様 屋外機	3	200	12.4	1	管理教室棟 屋外	臭気触媒付
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 56.0 kW	消費	冷房	1.24			
		暖房能力 63.0 kW	電力	暖房	0.74			
		付属品 SUS304製吹出方向変更フード						
GHP 4-1	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.08 (FAN)	3	普通教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 16.0 kW	消費	冷房	0.103		4-月 4-雪 4-花	
		暖房能力 18.0 kW	電力	暖房	0.103			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						

集中リモコン・遠隔監視アダプター配線参考図



アルテック設計

津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602

一級建築士 第177266号

伊藤 公智

DRAWING BY  
DATA

原図：A2

津市立成美小学校普通教室  
空調設備設置工事

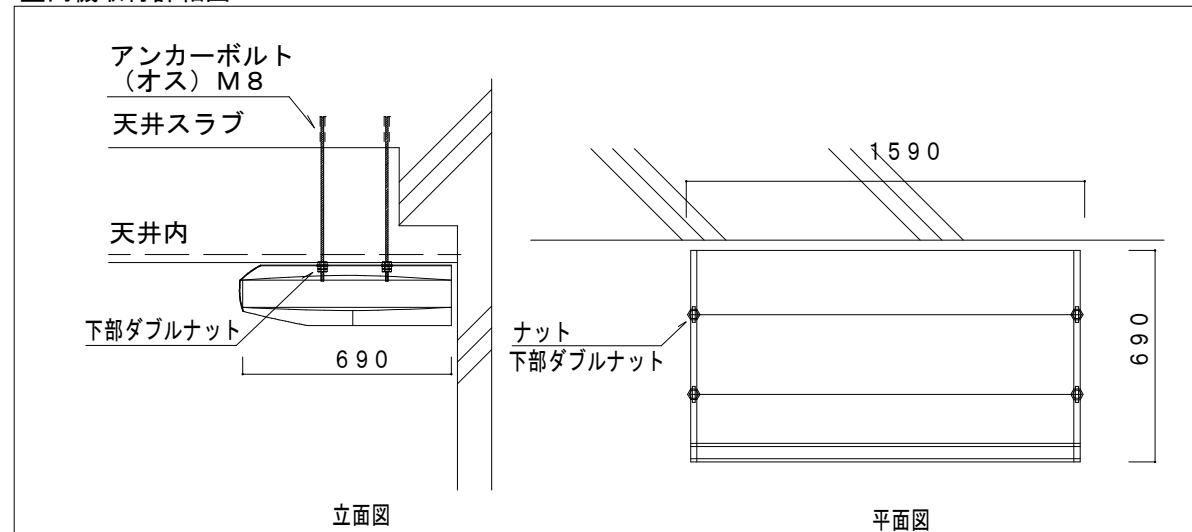
空調機器表・参考要領図

M - 4

S: —

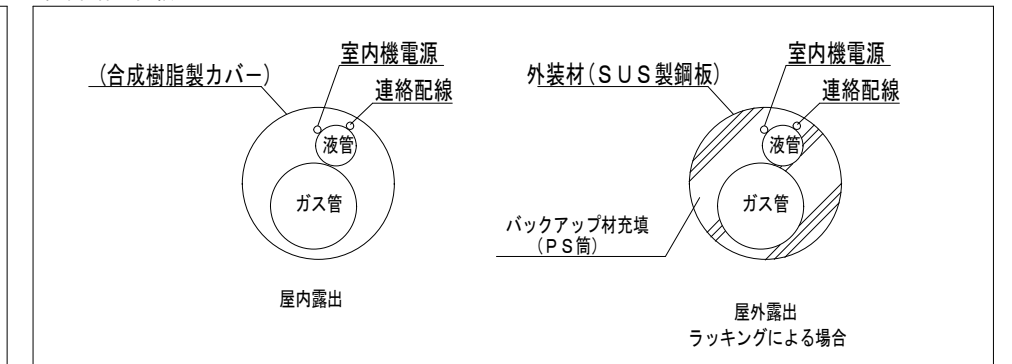
記号	機器名	機器仕様	電源容量			台数	設置場所	備考
			φ	V	エンジン kW			
GHP 5	ガスヒートポンプ式	形式 都市ガス13A仕様 屋外機	3	200	12.4	1	教室棟 屋外	臭気触媒付
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 56.0 kW	消費	冷房	1.24			
		暖房能力 63.0 kW	電力	暖房	0.74			
GHP 5-1	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.08 (FAN)	3	教室棟 2F普通教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 16.0 kW	消費	冷房	0.103			
		暖房能力 18.0 kW	電力	暖房	0.103			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター						
GHP 6	ガスヒートポンプ式	形式 都市ガス13A仕様 屋外機	3	200	12.4	1	教室棟 屋外	臭気触媒付
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 56.0 kW	消費	冷房	1.24			
		暖房能力 63.0 kW	電力	暖房	0.74			
GHP 6-1	ガスヒートポンプ式	形式 屋内機 天井吊形	1	200	0.08 (FAN)	3	教室棟 3F普通教室	
	ビル用マルチエアコン	冷房能力 16.0 kW	消費	冷房	0.103			
		暖房能力 18.0 kW	電力	暖房	0.103			
		付属品 ワイヤレスリモコン、ロングライフフィルター ドレンアップキット						
集中管理リモコン	カラー液晶タッチパネル方式		1	100		1	職員室	
	遠隔運転/停止、運転モード切替、温度設定、リモコン手元操作禁止							
	新設盤用キャビネット400W x 400H x 200D 扉表面取付							
遠隔監視アダプター						1		
特記事項	<p>運転特性、能力はJIS条件による。電源容量値は参考とする。空調機は省エネタイプ仕様とすること。</p> <p>空調機トップランナー基準改定仕様とする。冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。</p> <p>室外機-室内機間の2次側配線は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。</p> <p>リモコン配線共本工事とする。室外機・室内機共耐震振れ止め、転倒防止を施す事。</p> <p>室外機はSUS製ボルトにて固定、Wナットにて締付けの事。アンカーはケミカルアンカー仕様。</p> <p>機器は同等品以上とする。室外機は防振ゴムシート (t=10以上) を敷くこと。</p> <p>機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。但し該当しない機器については製造者標準仕様による。</p>							

室内機取付詳細図

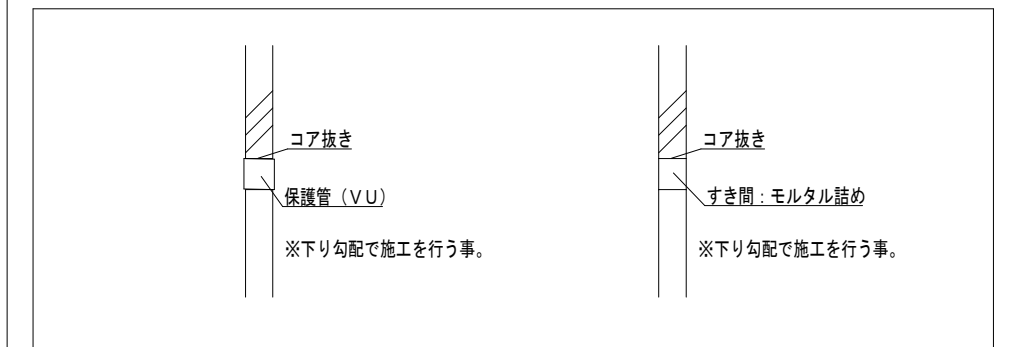


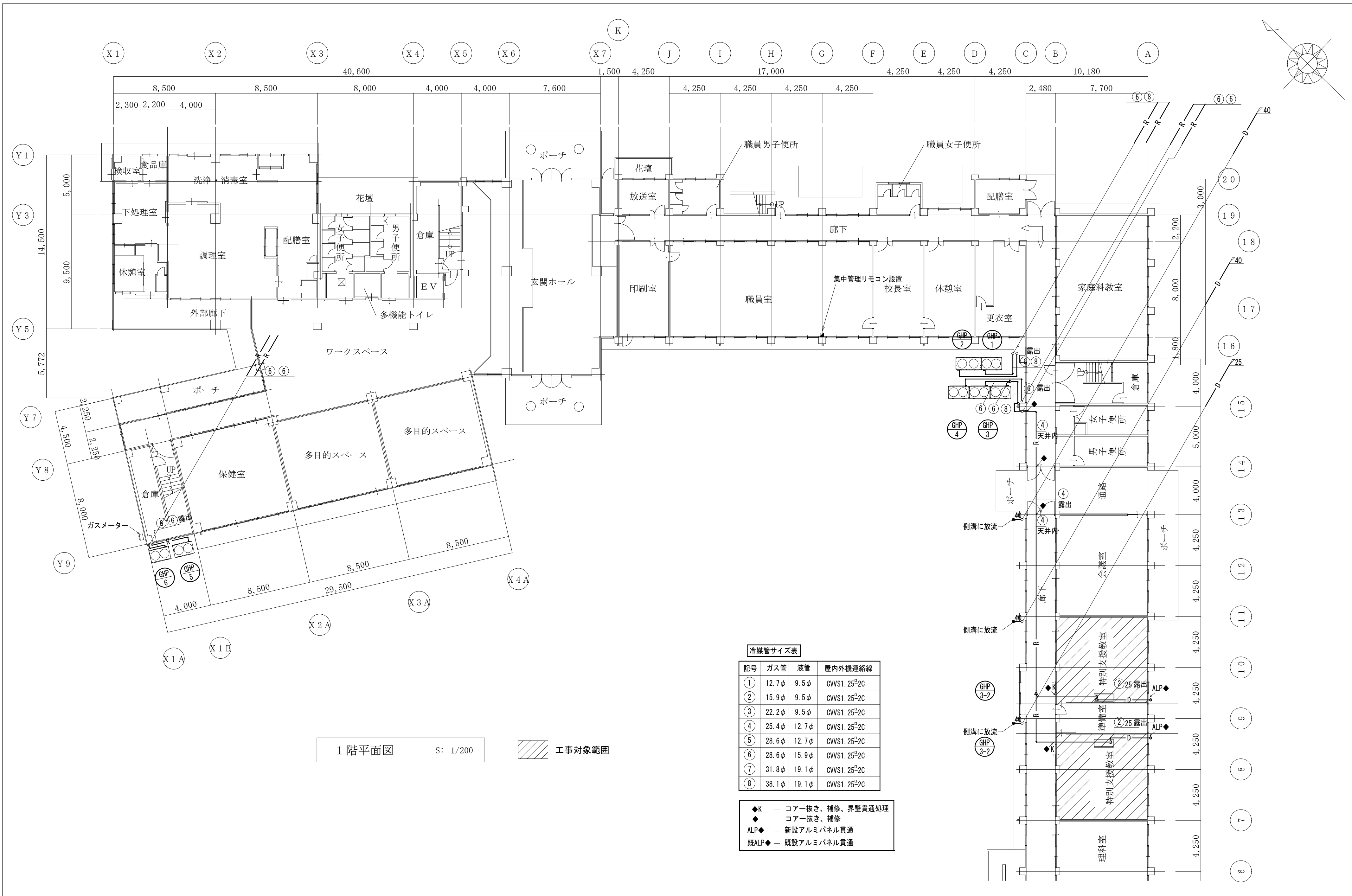
※天井ボードと室内機・壁と室内機の間は可能な限り隙間が空かないよう設置すること

冷媒管保温要領



コア抜き参考図





1階平面図 S: 1/200

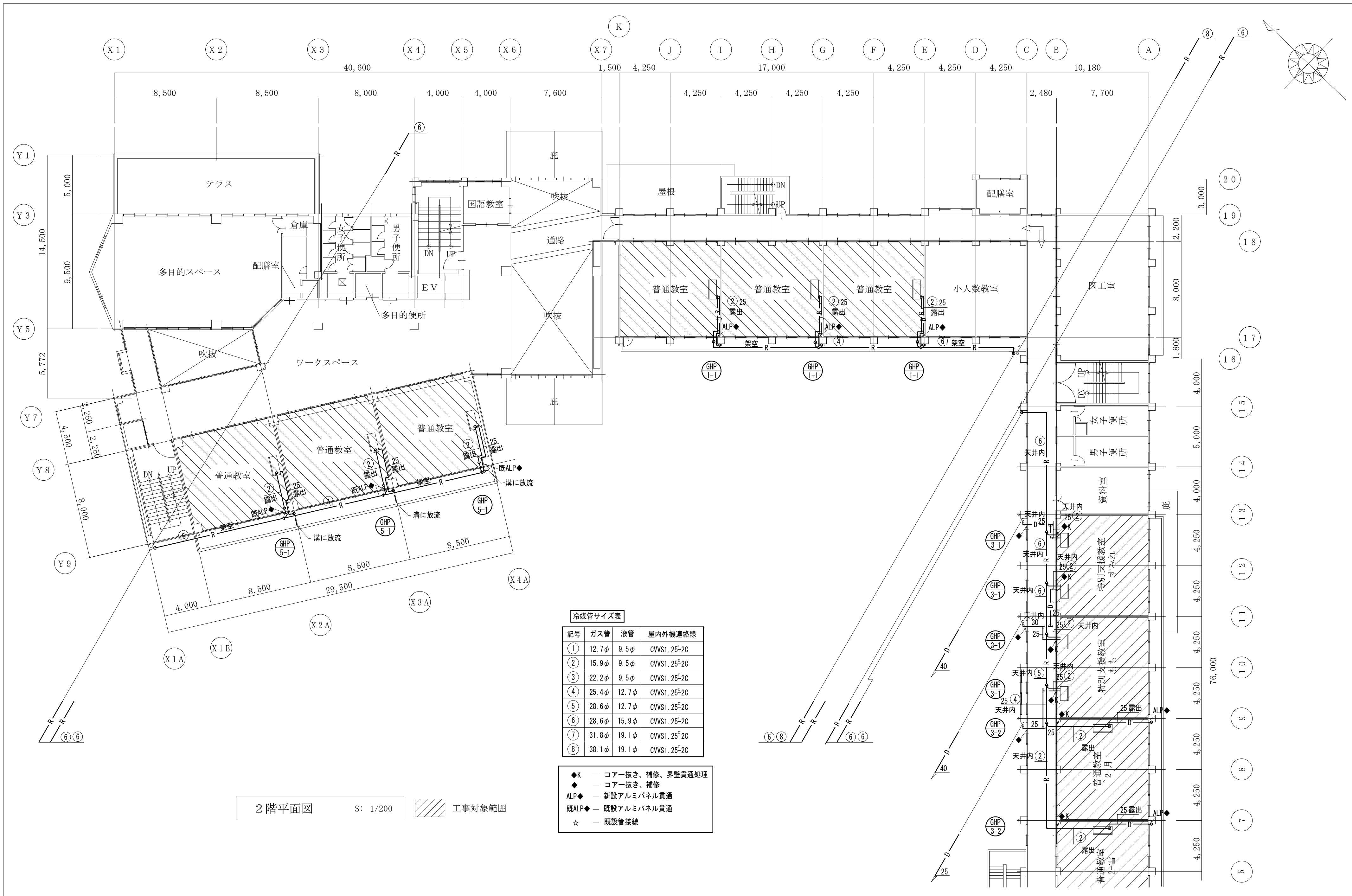
工事対象範囲

冷媒管サイズ表

記号	ガス管	液管	屋内外機連絡線
①	12.7φ	9.5φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
②	15.9φ	9.5φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
③	22.2φ	9.5φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
④	25.4φ	12.7φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑤	28.6φ	12.7φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑥	28.6φ	15.9φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑦	31.8φ	19.1φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑧	38.1φ	19.1φ	CVWS1.25 <sup>2</sup> 2C

- ◆K - コア抜き、補修、界壁貫通処理
- ◆ - コア抜き、補修
- ALP◆ - 新設アルミパネル貫通
- 既ALP◆ - 既設アルミパネル貫通



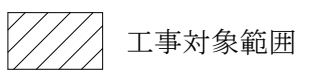


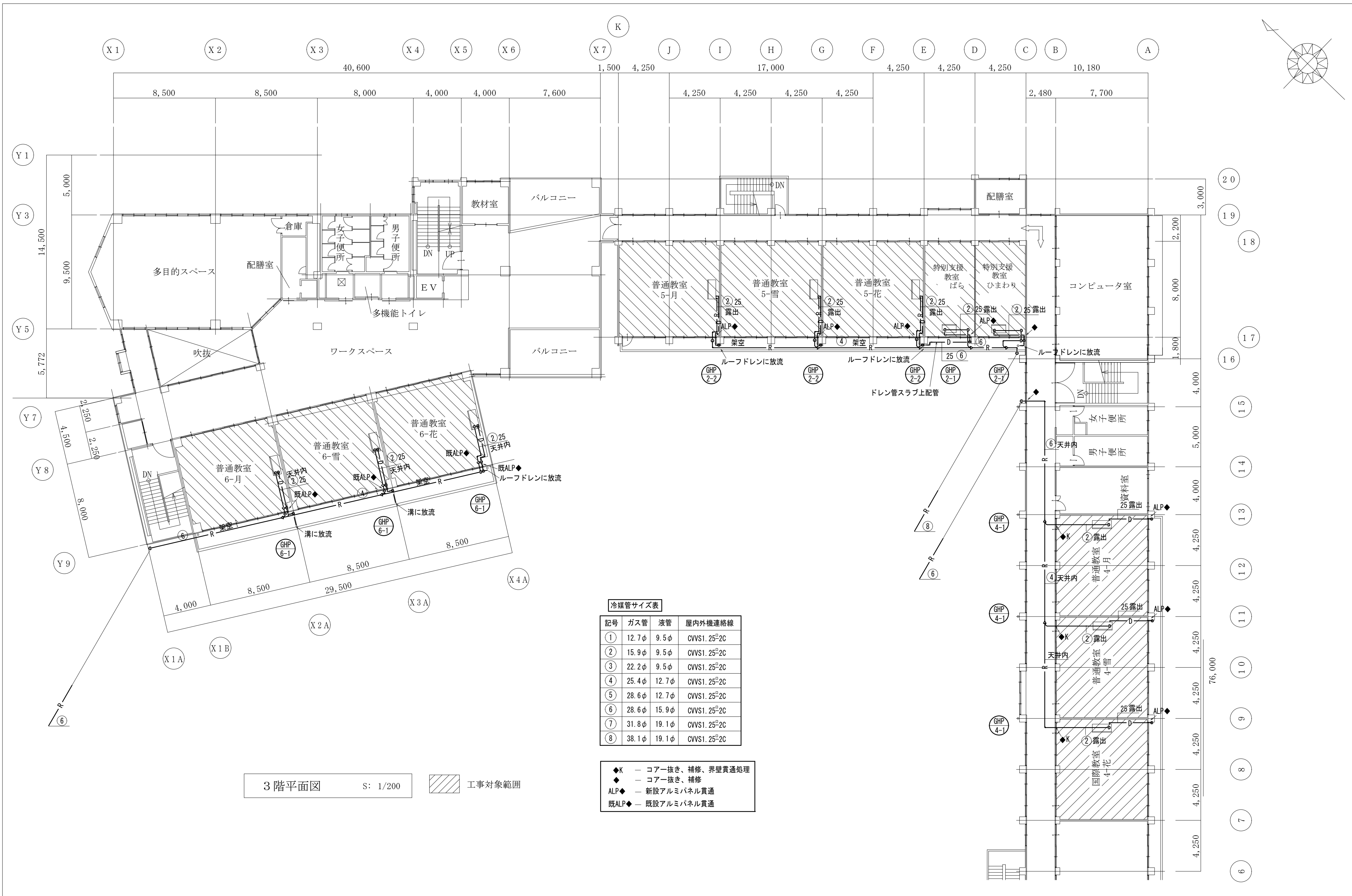
冷媒管サイズ表

記号	ガス管	液管	屋内外機連絡線
①	12.7φ	9.5φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
②	15.9φ	9.5φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
③	22.2φ	9.5φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
④	25.4φ	12.7φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑤	28.6φ	12.7φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑥	28.6φ	15.9φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑦	31.8φ	19.1φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑧	38.1φ	19.1φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C

- ◆K - コア抜き、補修、界壁貫通処理
- ◆ - コア抜き、補修
- ALP◆ - 新設アルミパネル貫通
- 既ALP◆ - 既設アルミパネル貫通
- ☆ - 既設管接続

2階平面図 S: 1/200





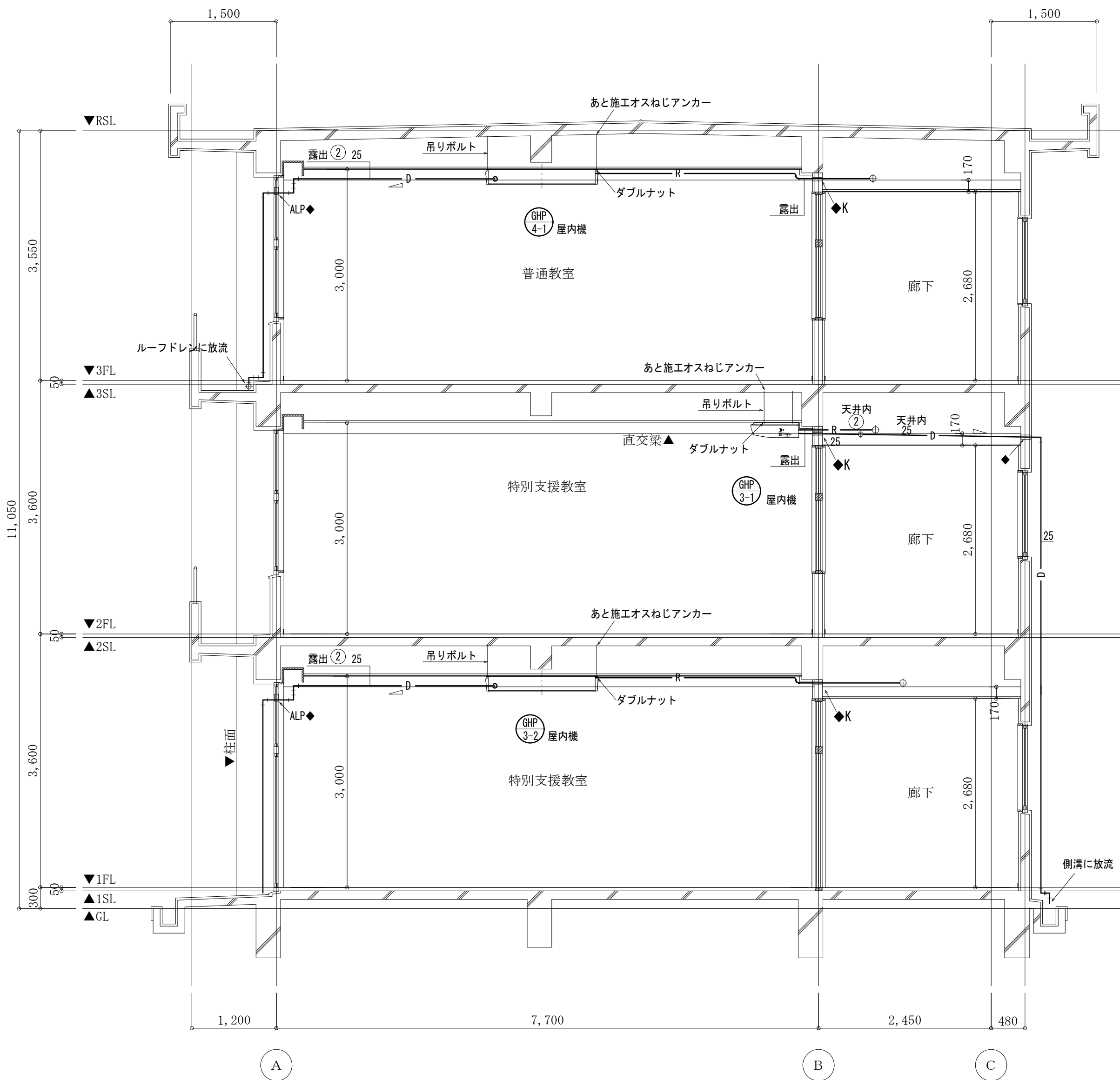
冷媒管サイズ表

記号	ガス管	液管	屋内外機連絡線
①	12.7φ	9.5φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
②	15.9φ	9.5φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
③	22.2φ	9.5φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
④	25.4φ	12.7φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑤	28.6φ	12.7φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑥	28.6φ	15.9φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑦	31.8φ	19.1φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C
⑧	38.1φ	19.1φ	CVVS1.25 <sup>2</sup> 2C

- ◆K - コア抜き、補修、界壁貫通処理
- ◆ - コア抜き、補修
- ALP◆ - 新設アルミパネル貫通
- 既ALP◆ - 既設アルミパネル貫通

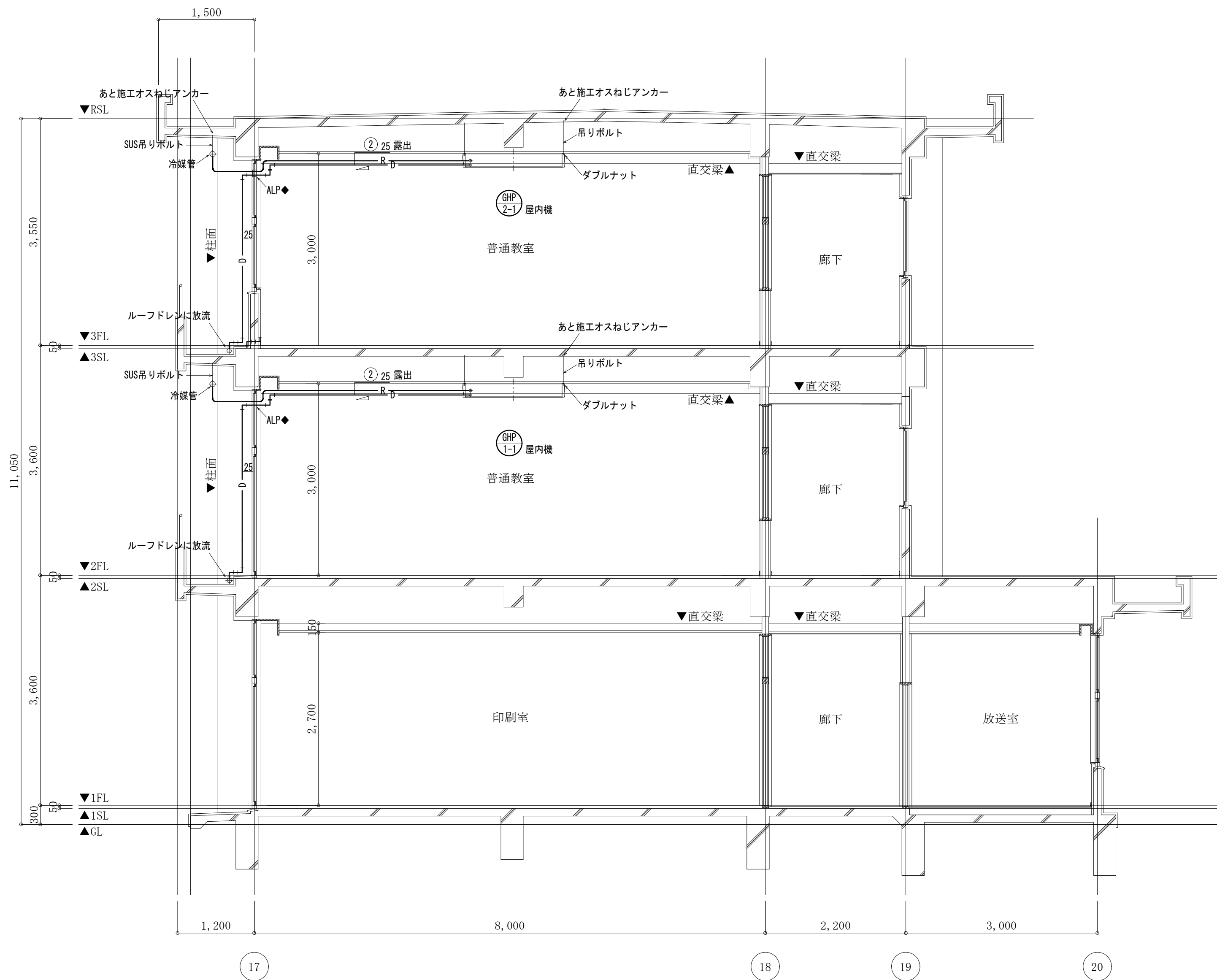
3階平面図 S: 1/200 工事対象範囲





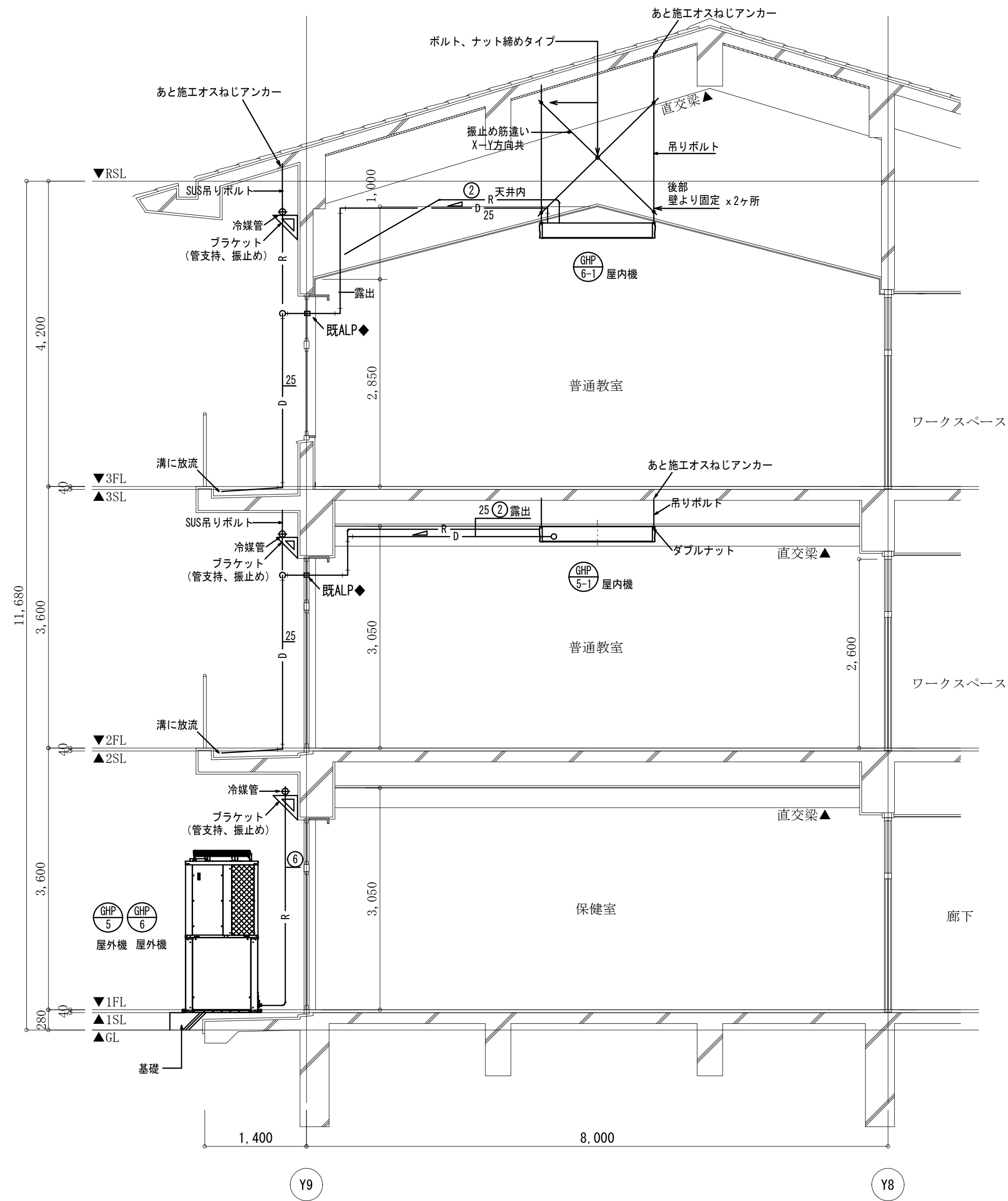
断面詳細図 (管理教室棟) 1 S: 1/50

- ◆K - コアー抜き、補修、界壁貫通処理
- ◆ - コアー抜き、補修



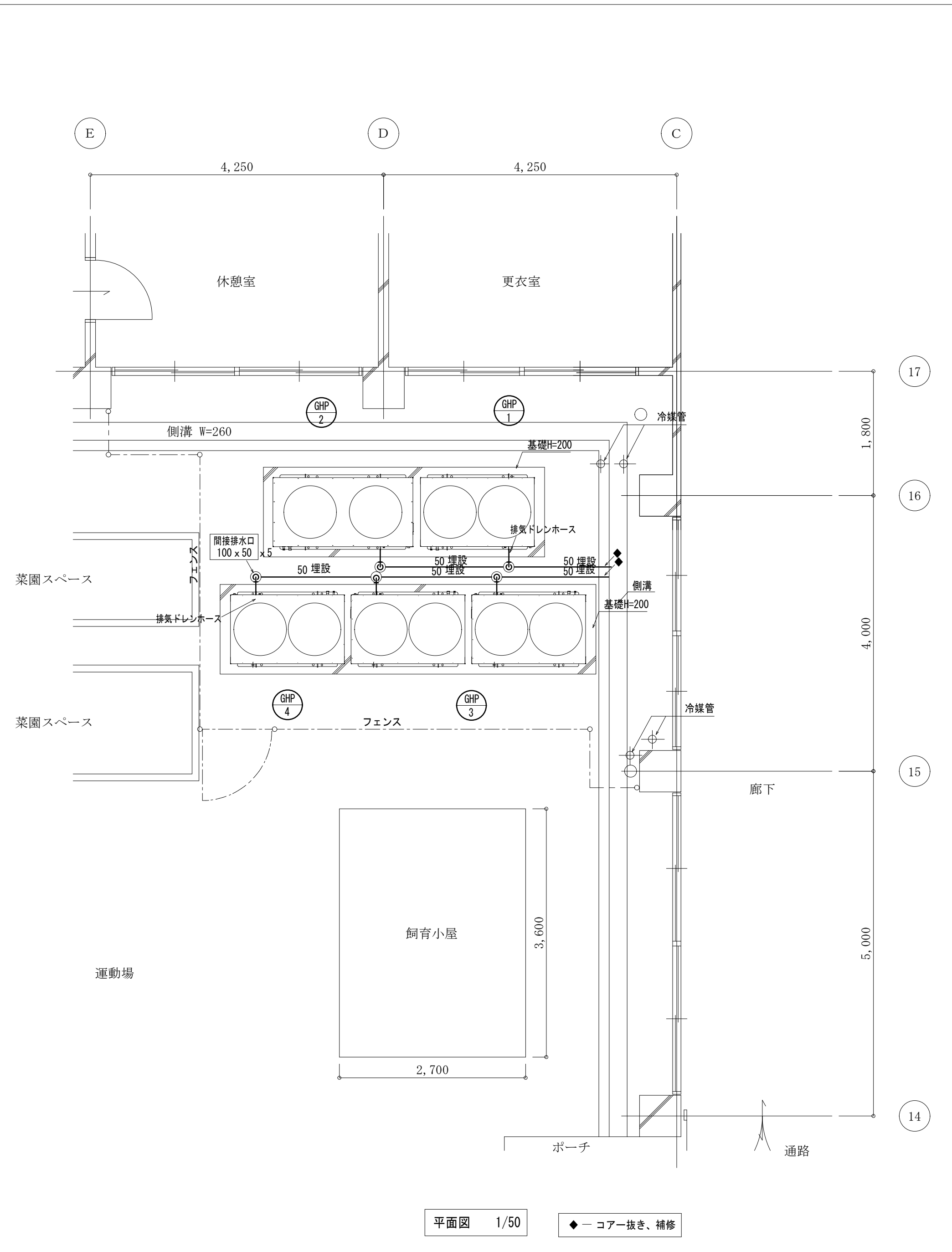
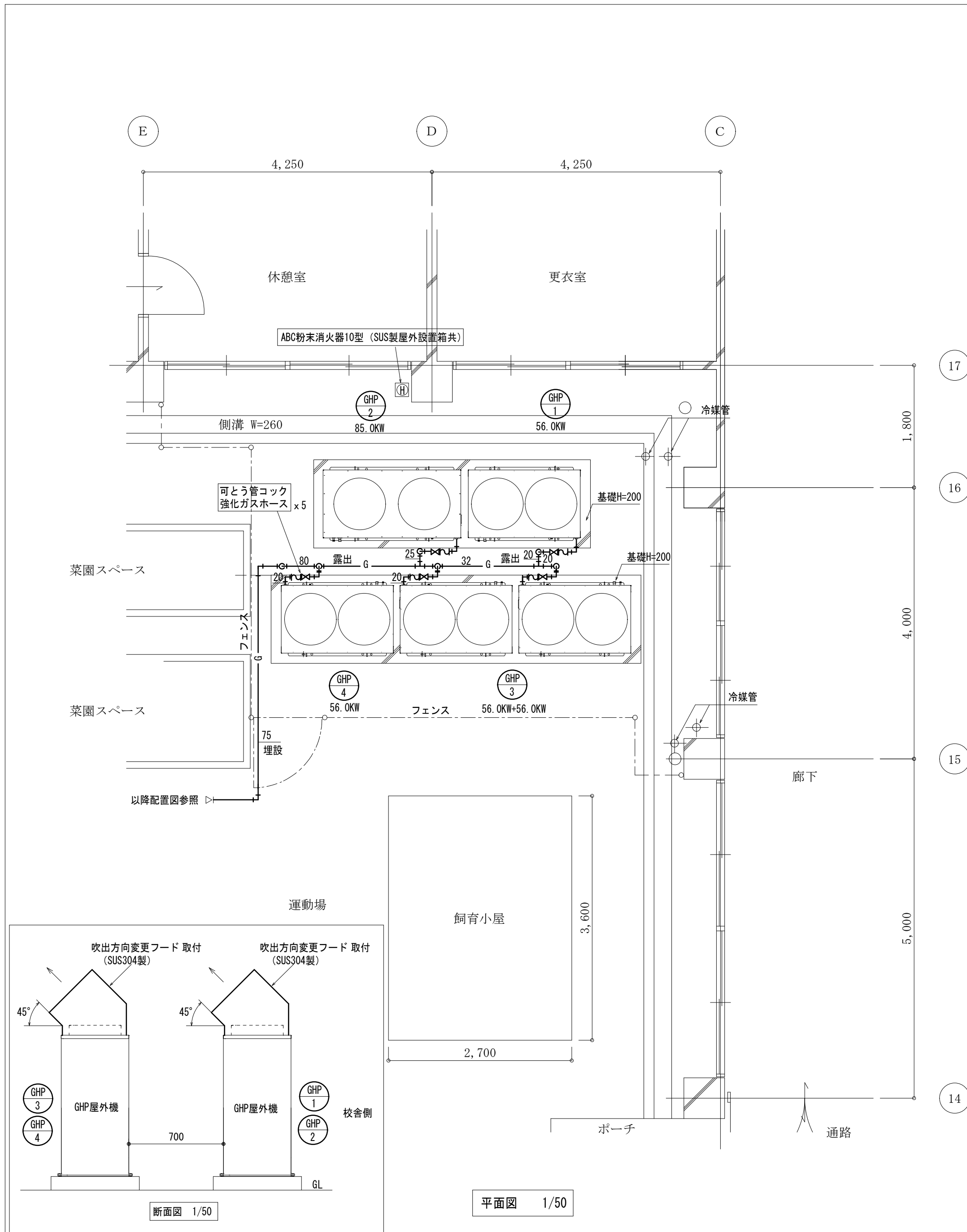
断面詳細図 (管理教室棟) 2 S: 1/50

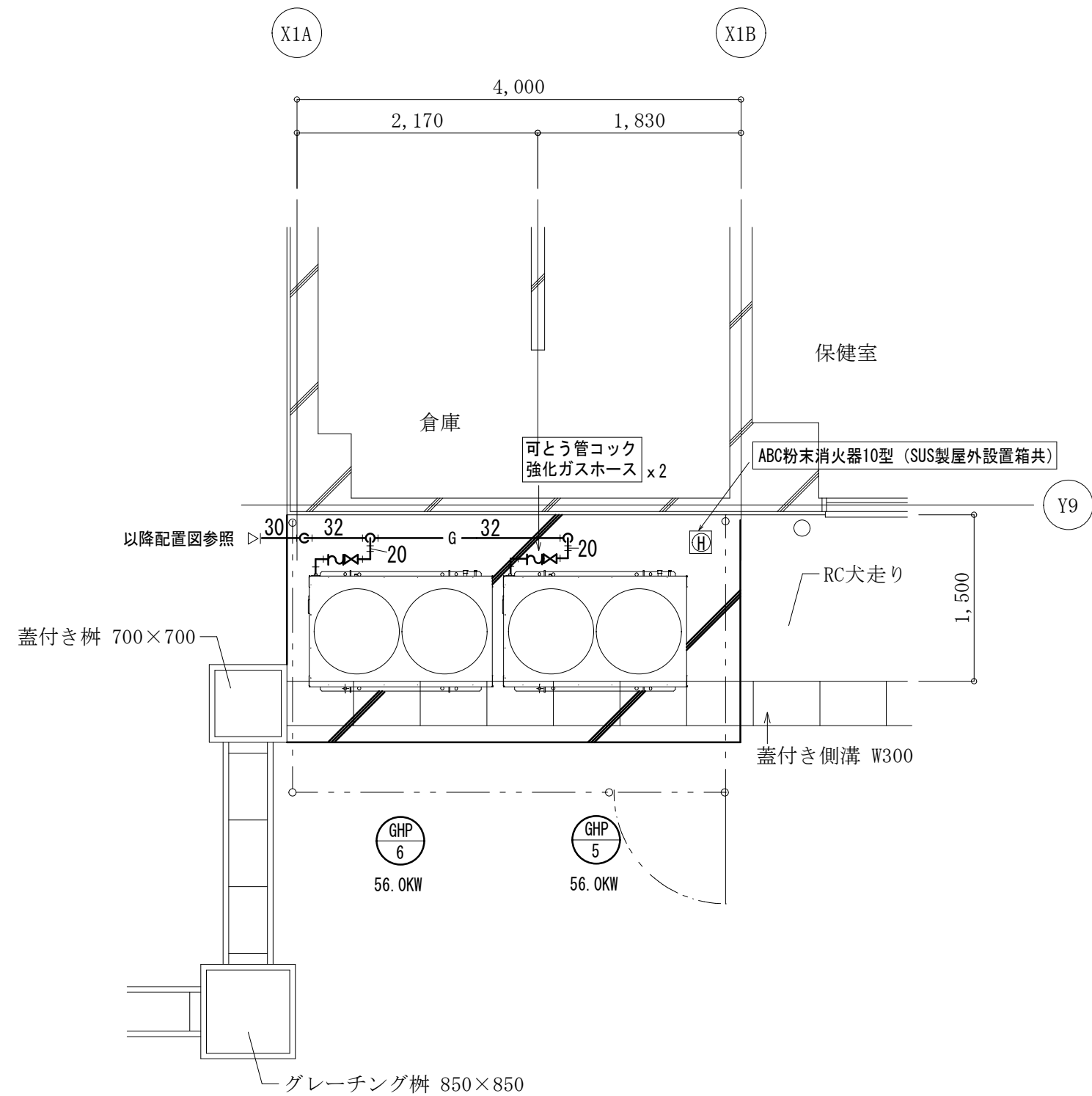
- ◆K - コア抜き、補修、界壁貫通処理
- ◆ - コア抜き、補修
- ALP◆ - 新設アルミパネル貫通



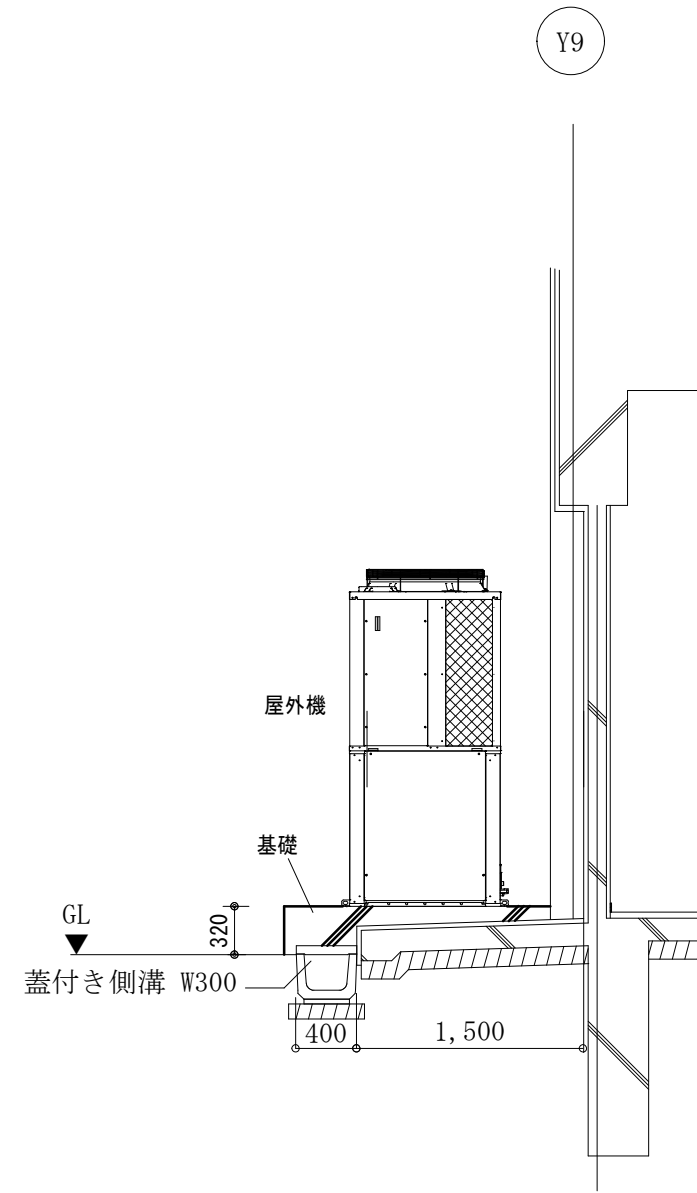
教室棟 断面詳細図 S: 1/50

既ALP◆— 既設アルミパネル貫通

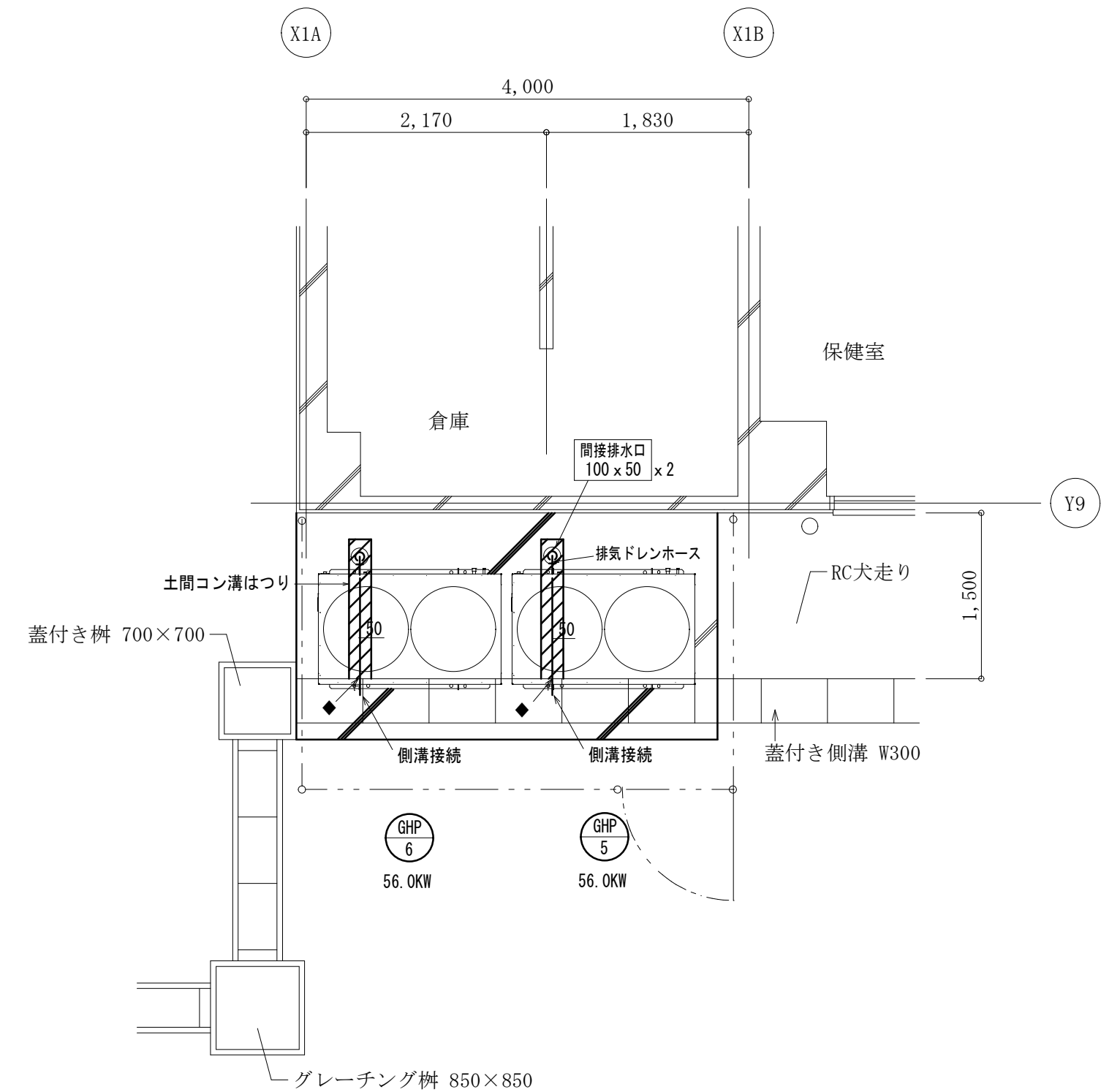




平面図 1/50

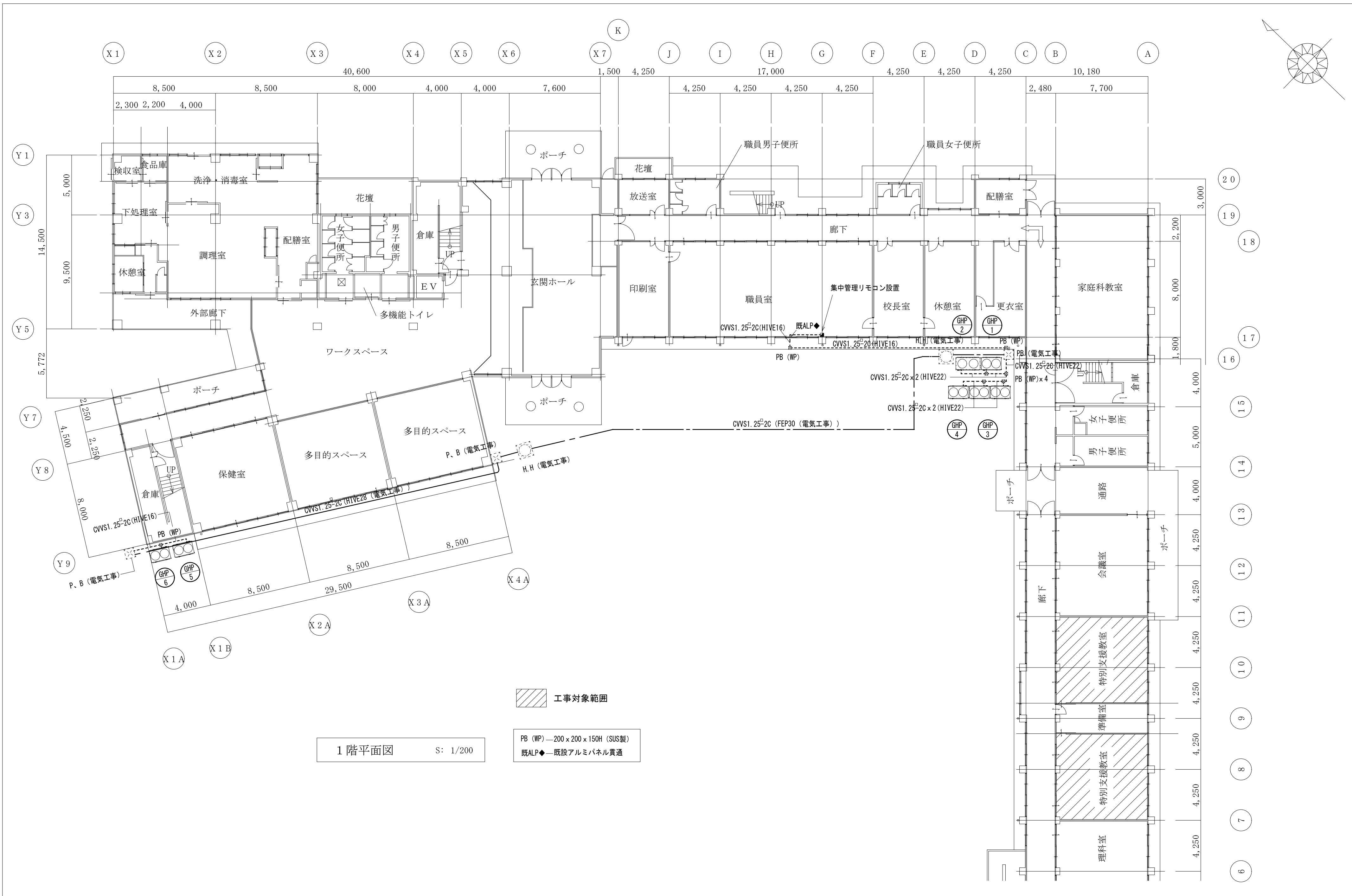


断面図 1/50



平面図 1/50

◆ コア抜き、補修




1階平面図 S: 1/200

工事対象範囲

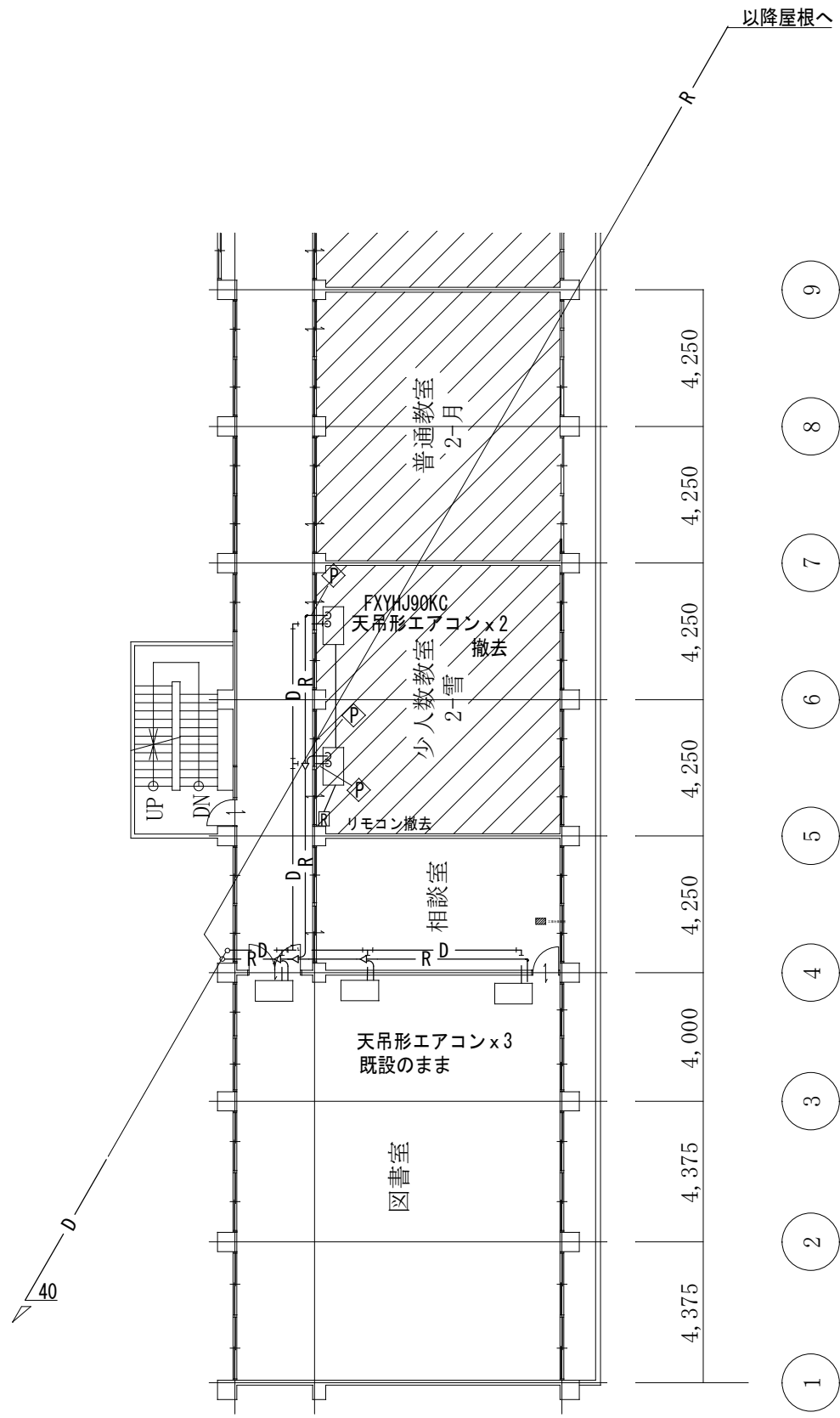
PB (WP) — 200 x 200 x 150H (SUS製)  
既ALP ◆ — 既設アルミパネル貫通



2階平面図 S: 1/200

 工事対象範囲

冷媒管、ドレン管は、放棄とする。  
 ⊕ — プラグ止め  
 既設冷媒管プラグ止め後の冷媒充填、機器試運転調整は、本工事とする。  
 機器、配管撤去後の天井、壁の復旧は建築図参照



アルテック設計

津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602

一級建築士 第177266号  
 伊藤 公智

DRAWING BY  
 DATA

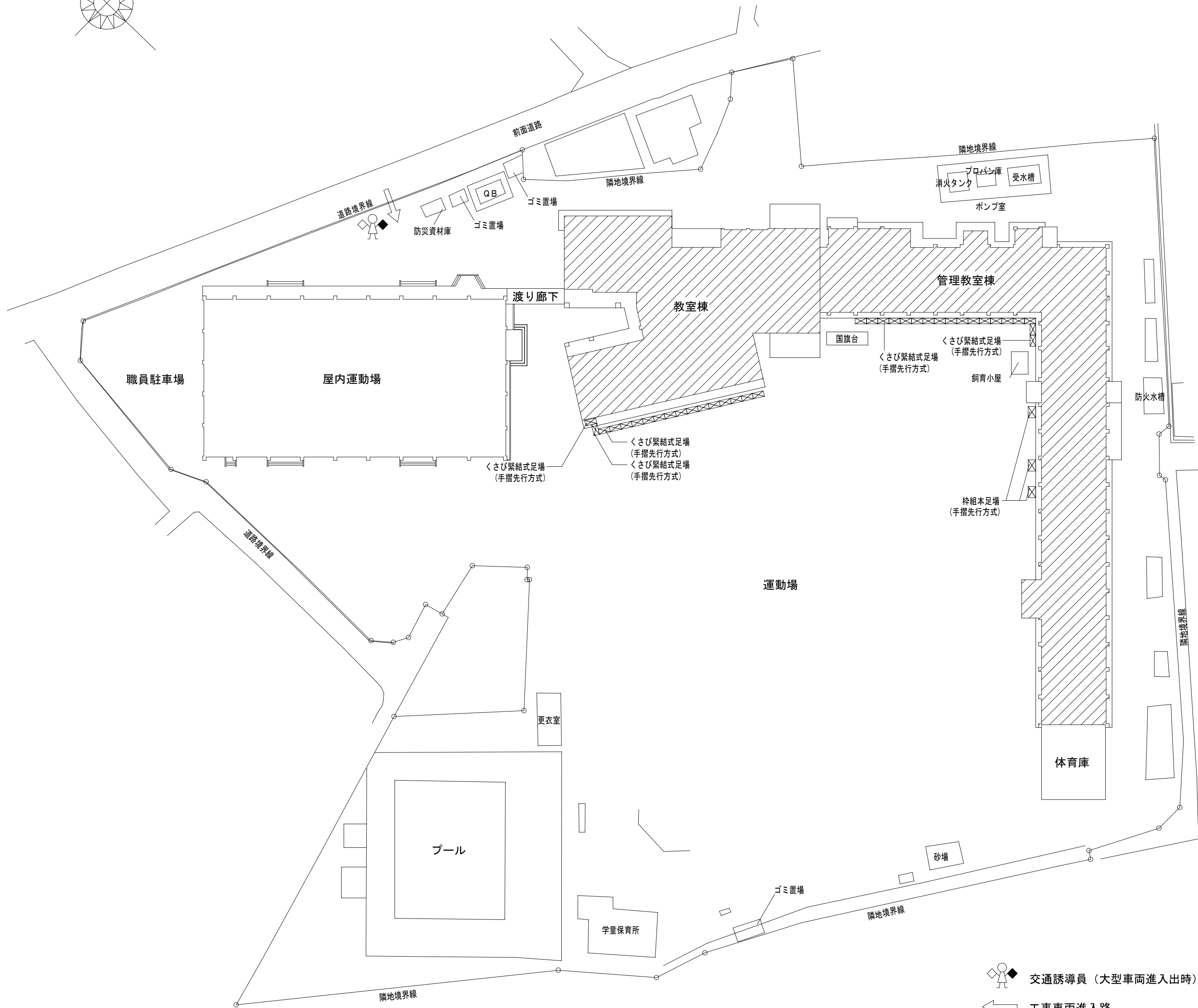
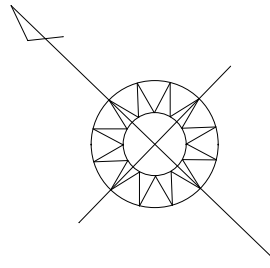
原図: A2

津市立成美小学校普通教室  
 空調設備設置工事

空調設備 2階平面図 (撤去図)

M - 14

S: 1/200



配置図 S: 1/500

- 交通誘導員 (大型車両進入時)
- 工事車両進入路
- 工事対象範囲

※ 仮囲い、工事車両駐車場などの位置については、現地にて監督員と協議すること。  
 ※ 側溝、柵等は車両通行時に破損しないよう、鉄板敷きなどで養生すること。  
 ※ 工事期間中も屋内施設は利用するため、安全には十分注意すること。

アルテック設計

津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602

一級建築士 第177266号

伊藤 公智

DRAWING BY  
DATA

原図: A2

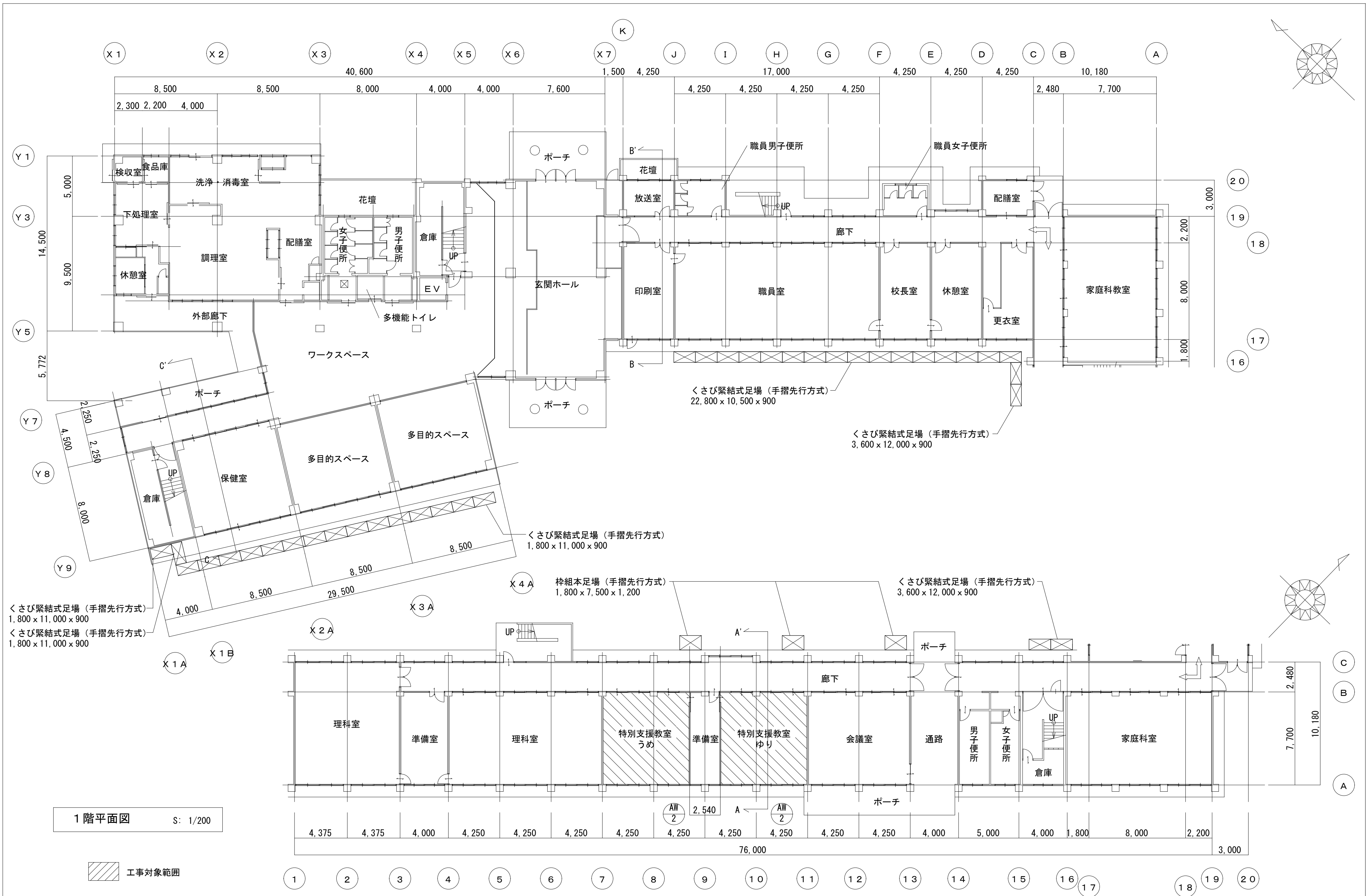
津市立成美小学校普通教室

空調設備設置工事

配置図・仮設計画図

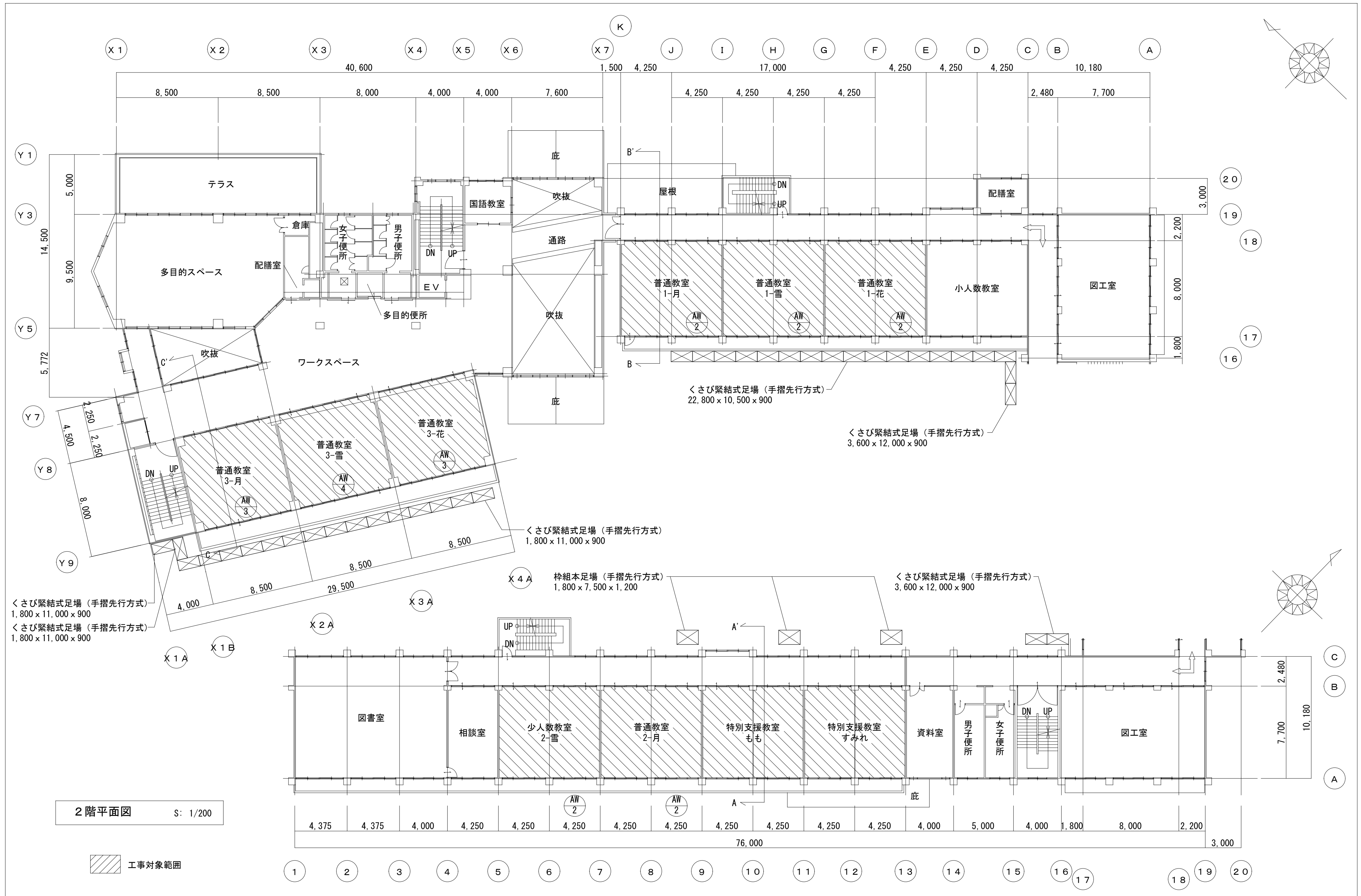
M - 15

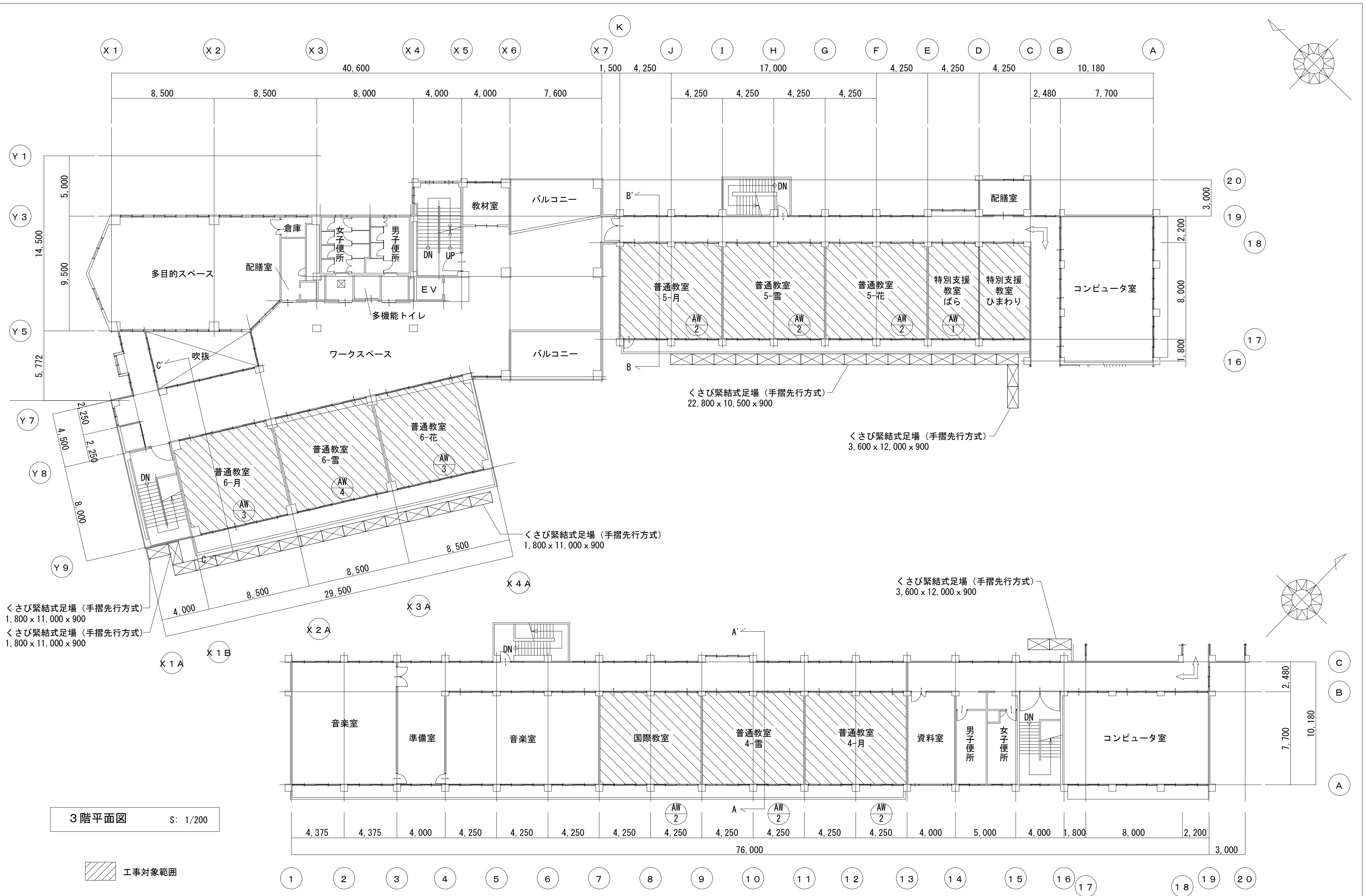
S: 1/500



1階平面図 S: 1/200

工事対象範囲





くさび緊結式足場 (手摺先行方式)  
1,800 x 11,000 x 900  
くさび緊結式足場 (手摺先行方式)  
1,800 x 11,000 x 900

くさび緊結式足場 (手摺先行方式)  
22,800 x 10,500 x 900

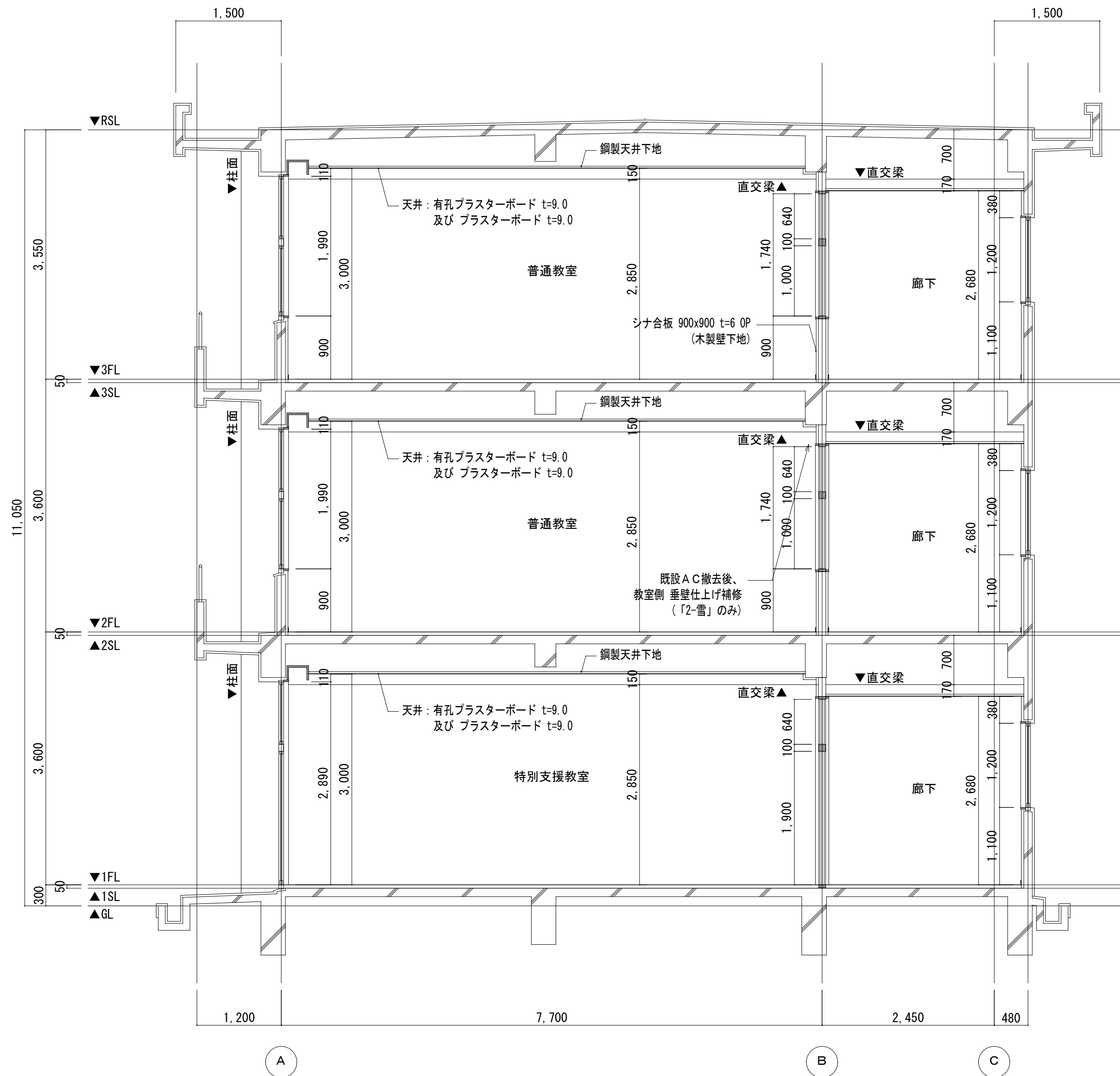
くさび緊結式足場 (手摺先行方式)  
3,600 x 12,000 x 900

くさび緊結式足場 (手摺先行方式)  
1,800 x 11,000 x 900

くさび緊結式足場 (手摺先行方式)  
3,600 x 12,000 x 900

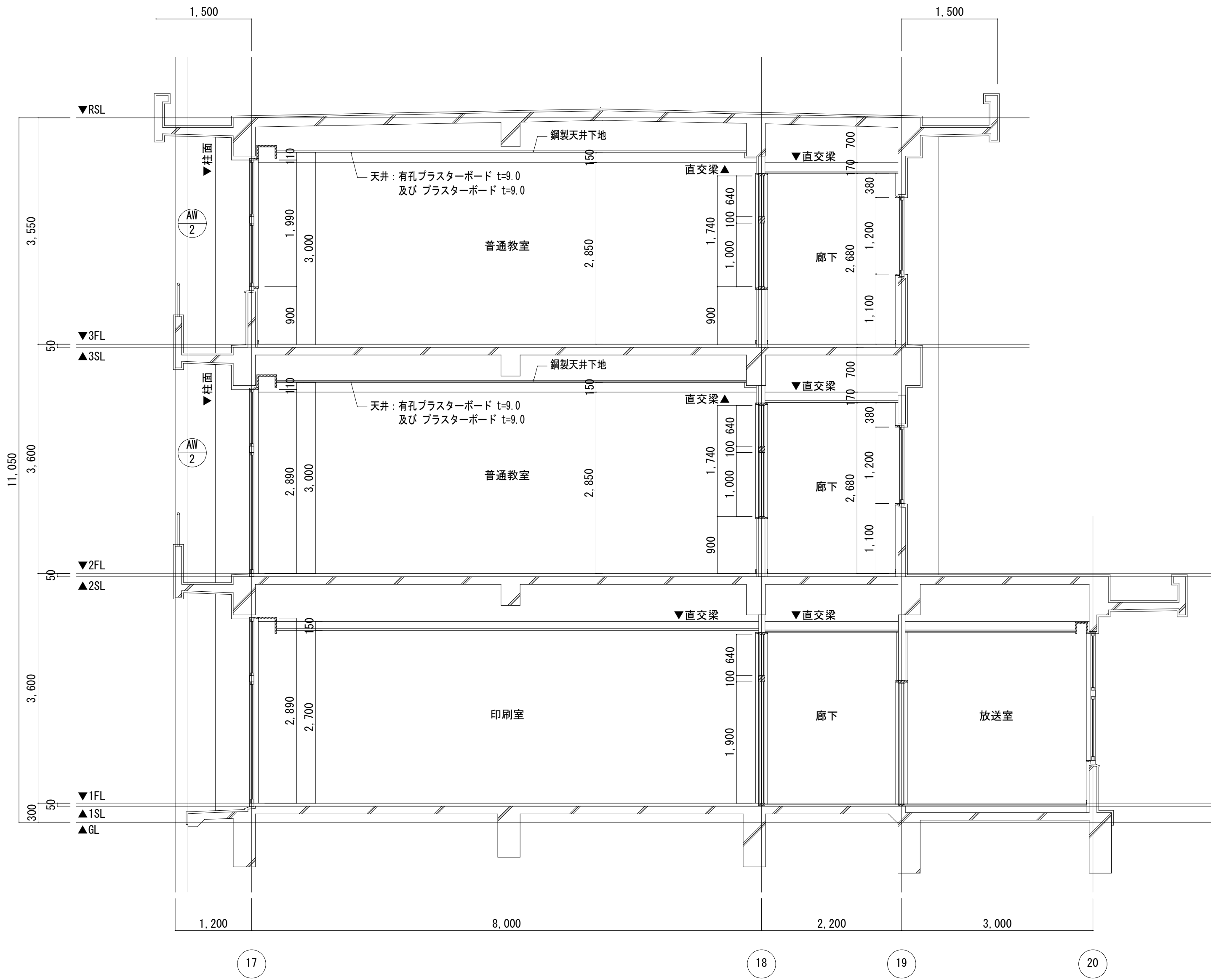
3階平面図 S: 1/200

工事対象範囲



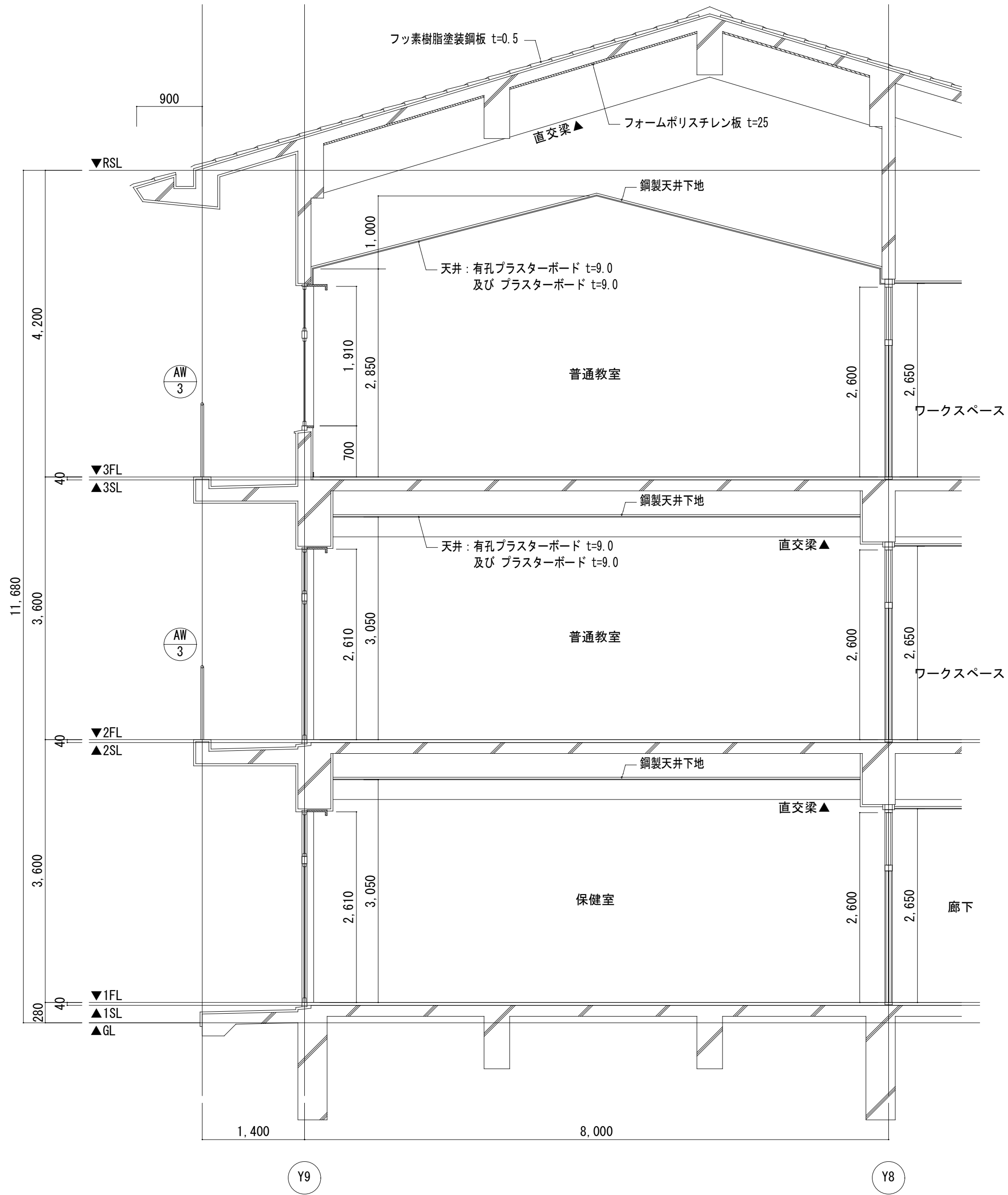
断面詳細図 (管理教室棟) A-A' S: 1/50





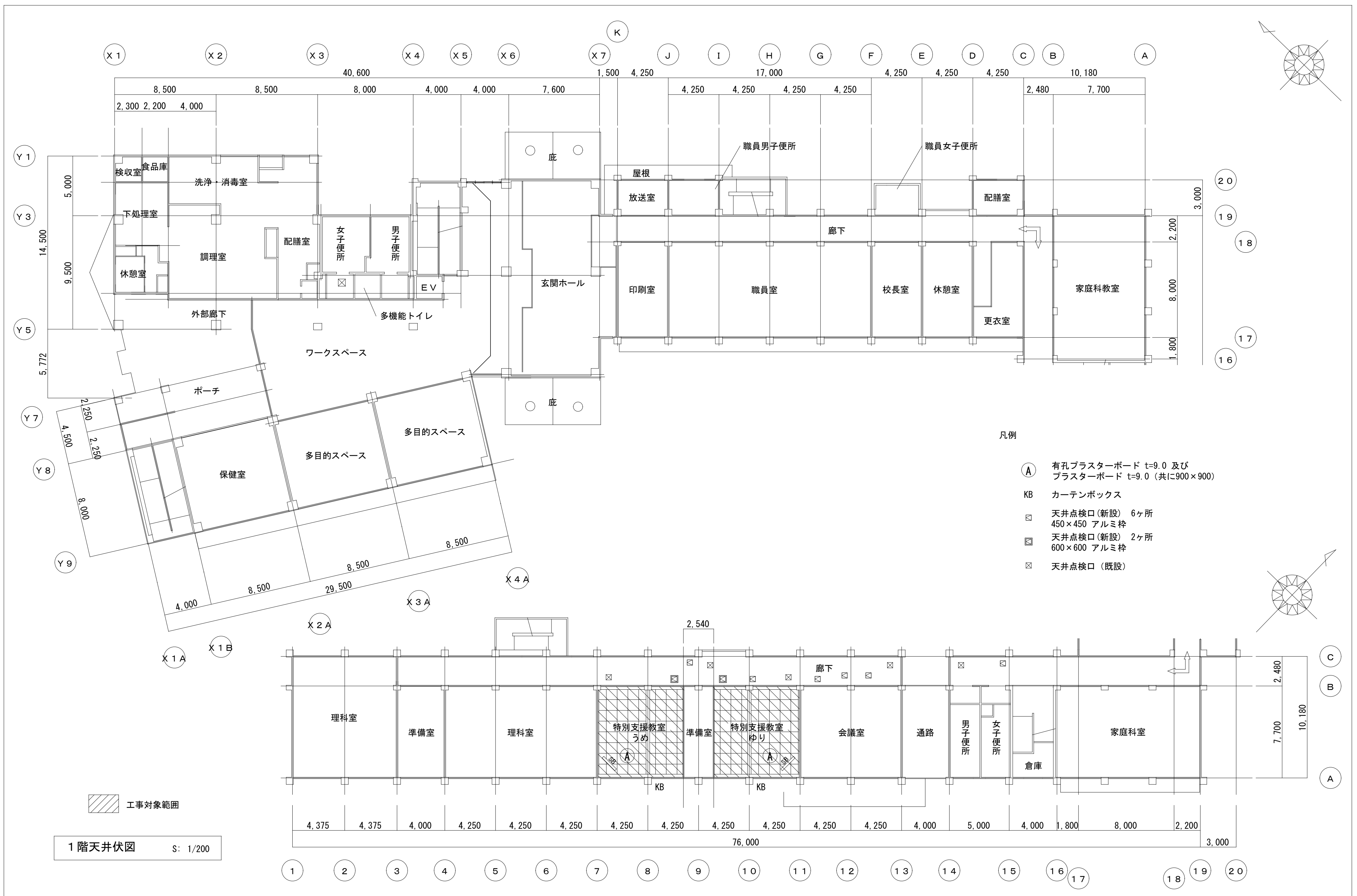
断面詳細図 (管理教室棟) B-B' S: 1/50

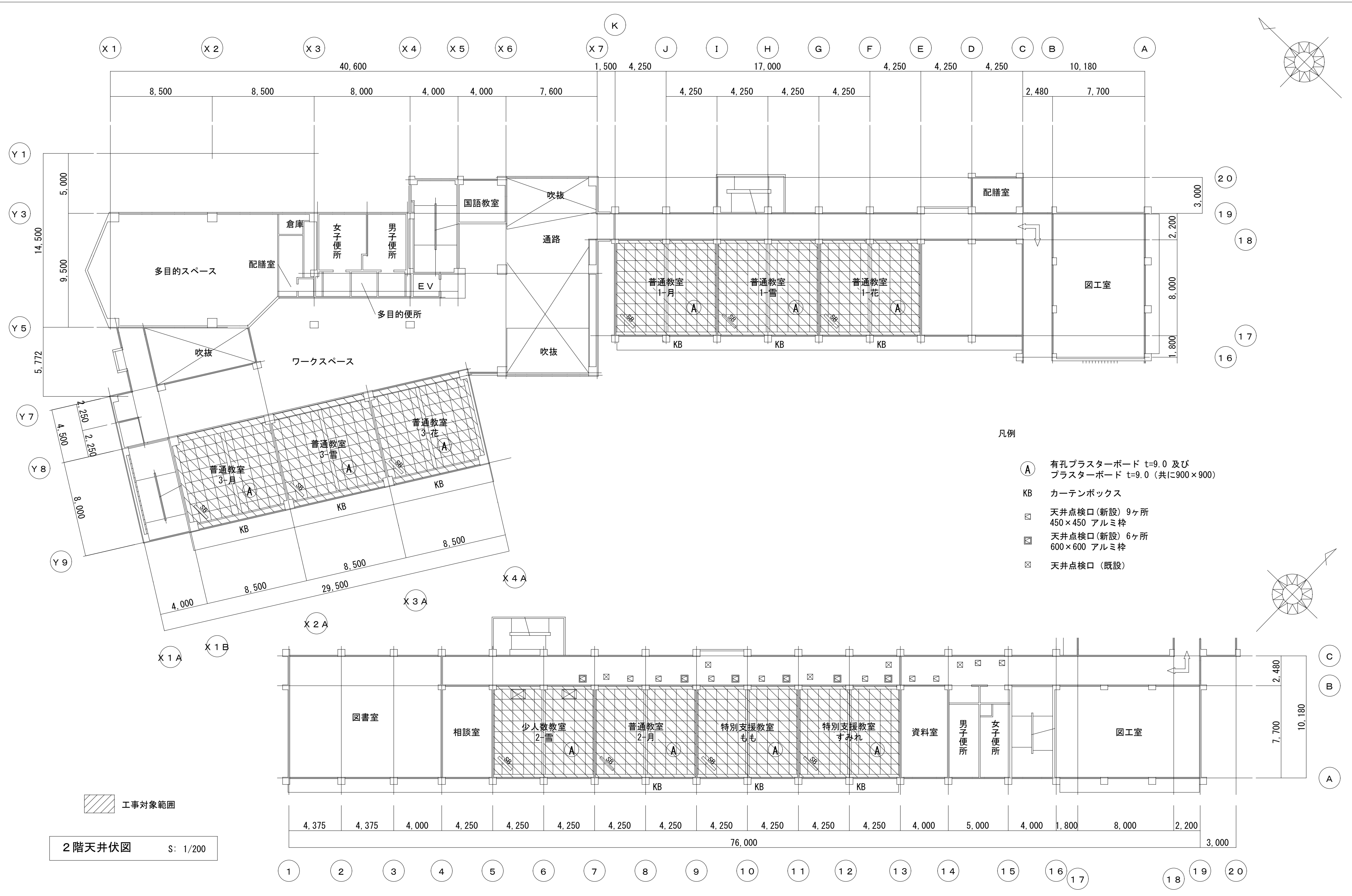
建具表 (管理教室棟)		S:1/100	
番号	名称	AW-1	ランマ付き引違い2連アルミサッシ
姿図			
場所			特別支援教室 (管理教室棟)
箇所			3階:1
見込み			70
仕上			—
ガラス			FL-3(ランマ共)
金物			クレセント、アルミ水切り、他一式
備考			アルミパネル新設
番号	名称	AW-2	ランマ付き引違い2連アルミサッシ
姿図			
場所			普通教室 (管理教室棟)
箇所			2階:3 3階:3
見込み			70
仕上			—
ガラス			FL-3(ランマ共)
金物			クレセント、アルミ水切り、他一式
備考			アルミパネル新設

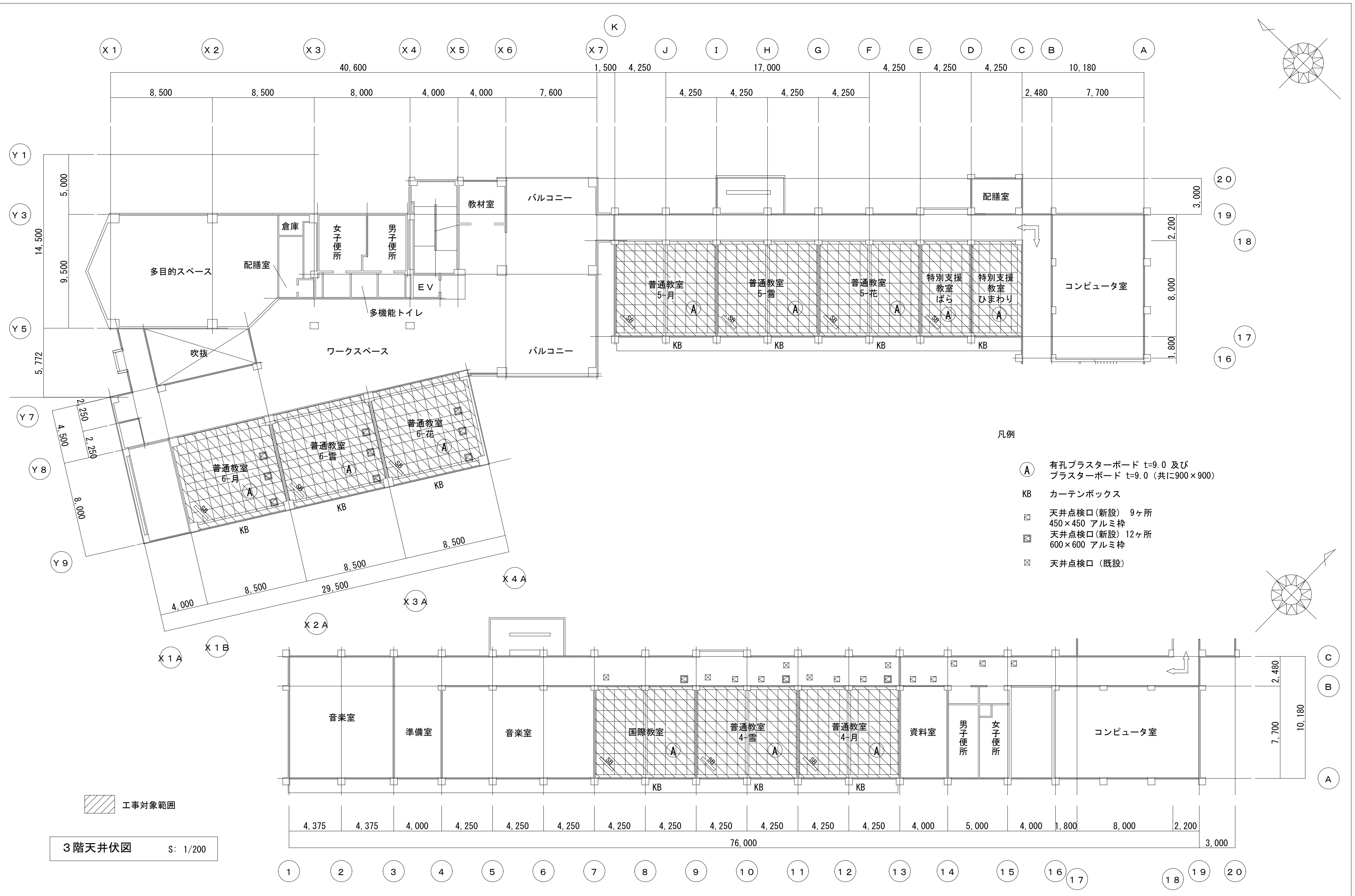


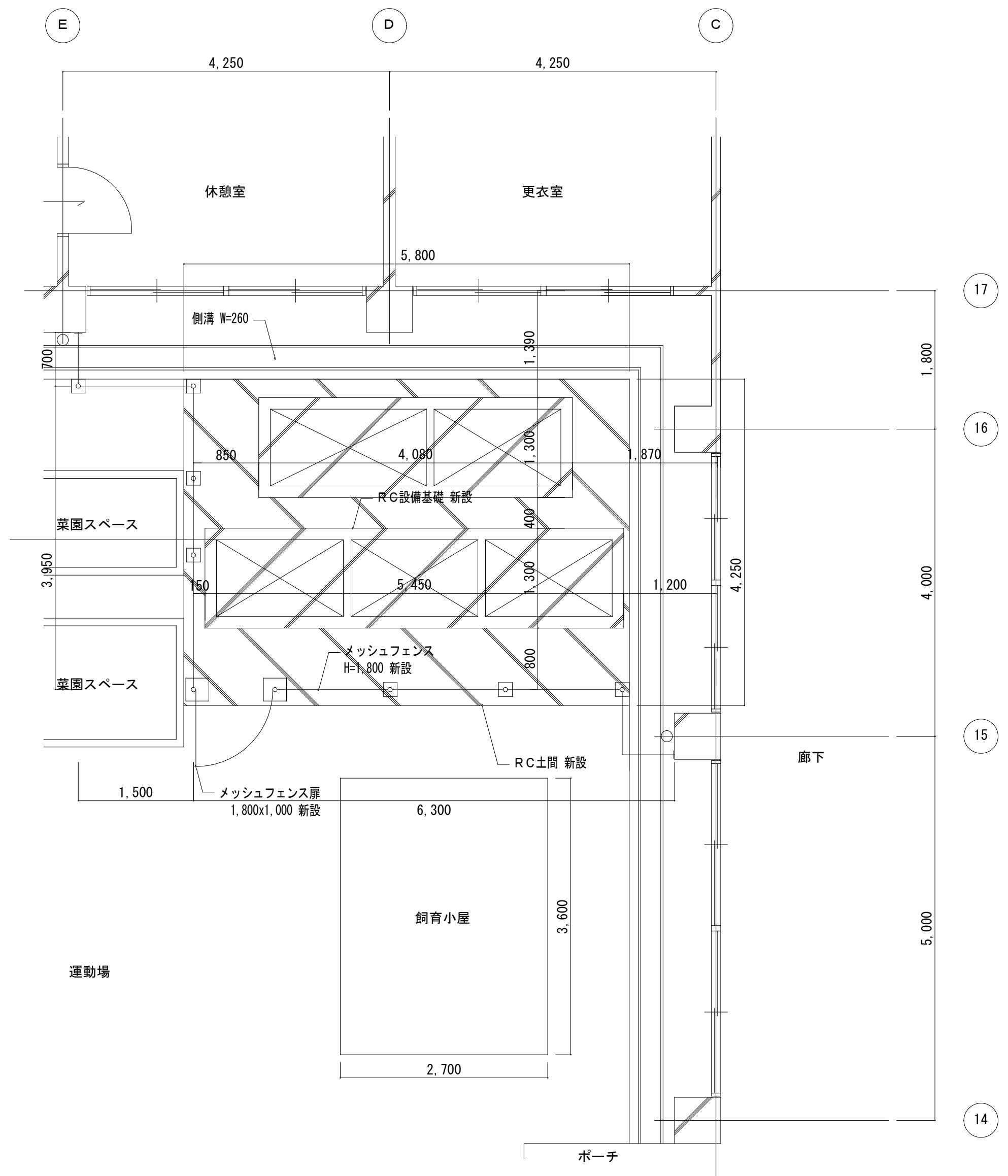
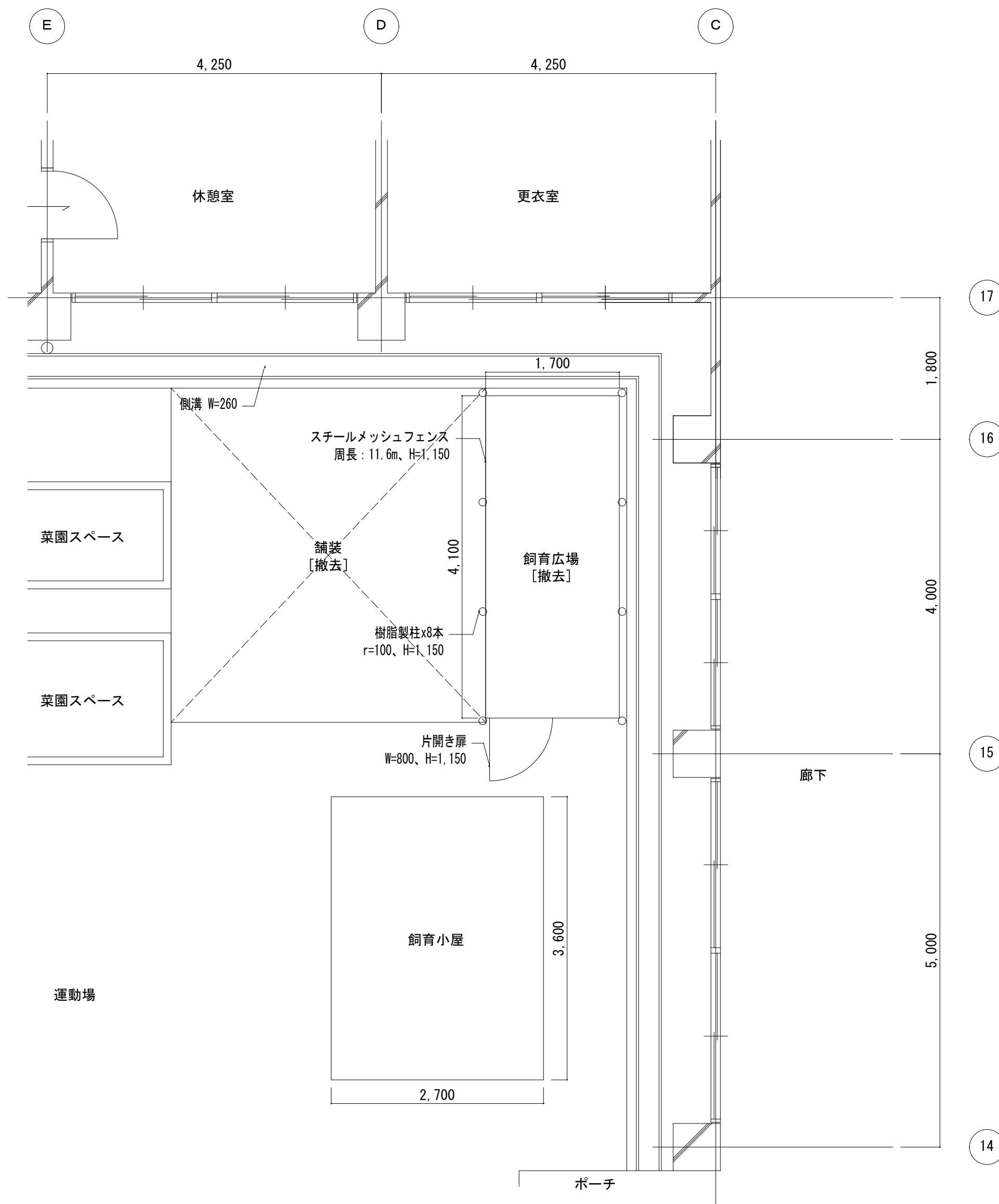
教室棟 断面詳細図 C-C' S: 1/50

建具表 (教室棟)		S:1/100	
番号	名称	AW-3	ランマ付き引違い4連アルミサッシ
姿図			
場所	普通教室 (教室棟)		
箇所	2階: 2 3階: 2		
見込み	100		
仕上	—		
ガラス	ST-4(ランマ共)		
金物	クレセント、アルミ水切り、腰部アルミパネル t=3、他一式		
備考	既存のまま		
番号	名称	AW-4	ランマ付き引違い4連アルミサッシ
姿図			
場所	普通教室 (教室棟)		
箇所	2階: 1 3階: 1		
見込み	100		
仕上	—		
ガラス	ST-4(ランマ共)		
金物	クレセント、アルミ水切り、腰部アルミパネル t=3、他一式		
備考	既存のまま		









外構撤去リスト		
管理教室棟	樹脂製柱 φ100×H1,150 (基礎共)	8本
	スチールメッシュフェンス H=1,150	11.6m
	スチールメッシュフェンス扉 800×1,150	1枚
	舗装	

撤去前

撤去後

設備基礎仕様	
コンクリートの設計基準強度	Fc = 18N/mm <sup>2</sup>
鉄筋の種類	SD295A

外構図(管理教室棟) S: 1/50

アルテック設計

津市大谷町233番地 TEL 059-225-1602

一級建築士 第177266号  
伊藤 公智

DRAWING BY  
DATA

原図: A2

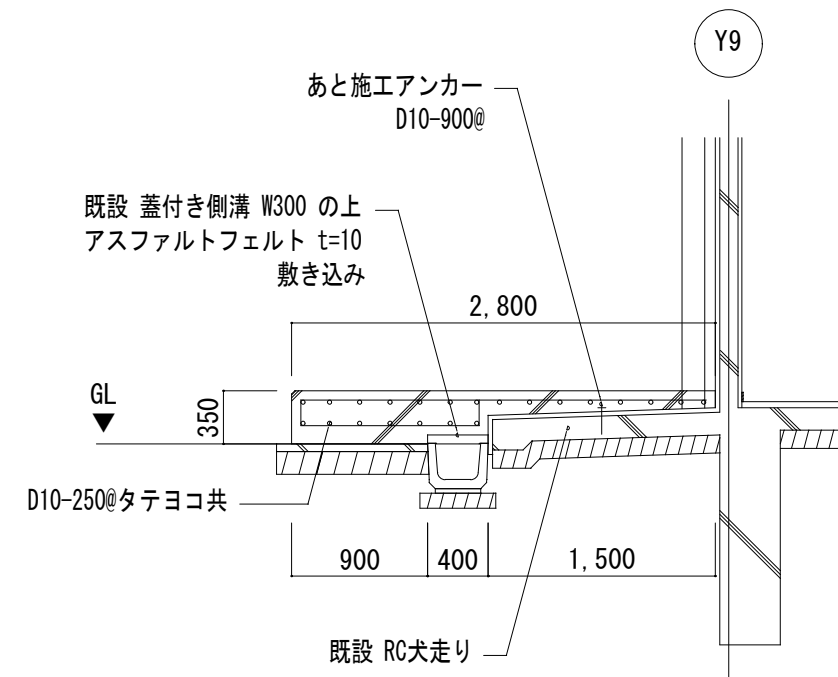
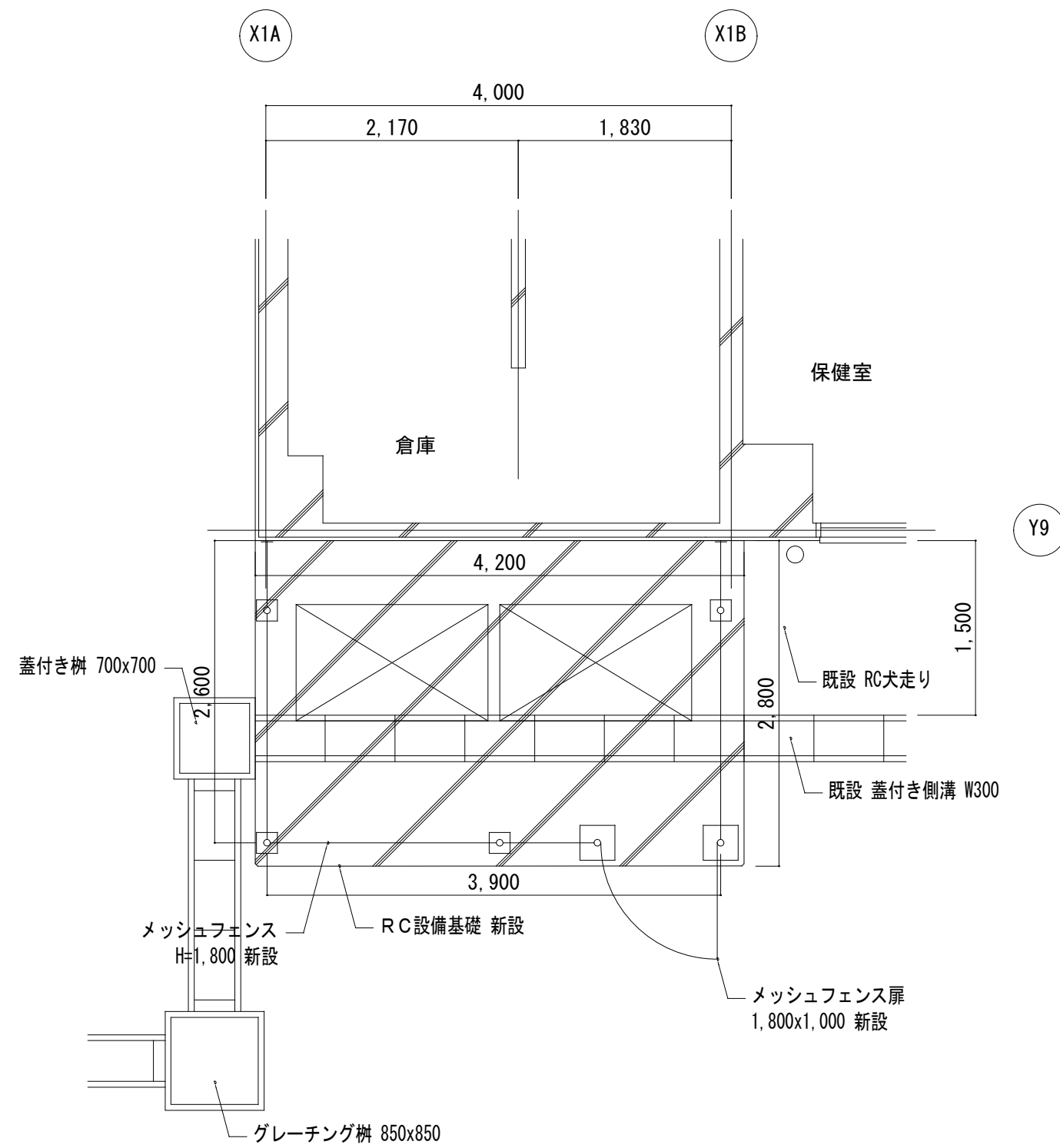
津市立成美小学校普通教室  
空調設備設置工事

外構図1

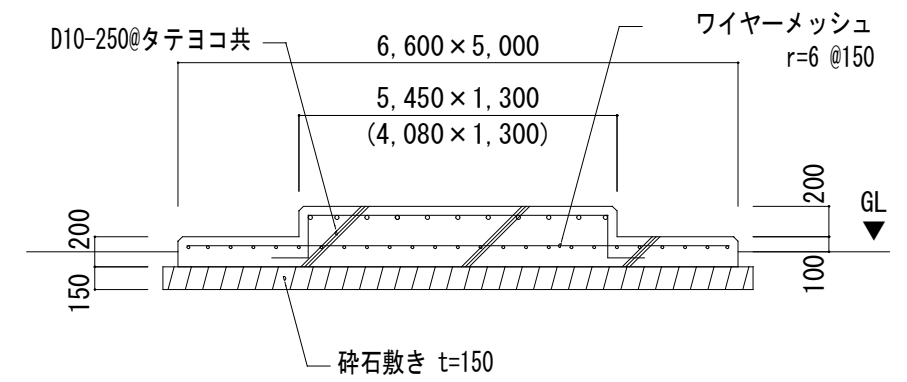
M - 25

S: 1/50



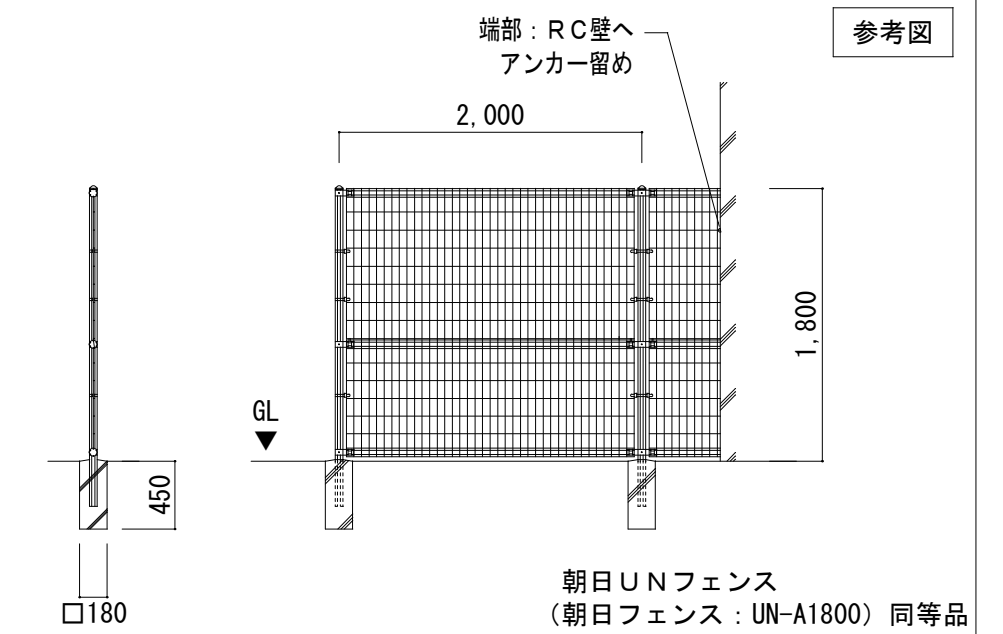


RC土間及び設備基礎 詳細図

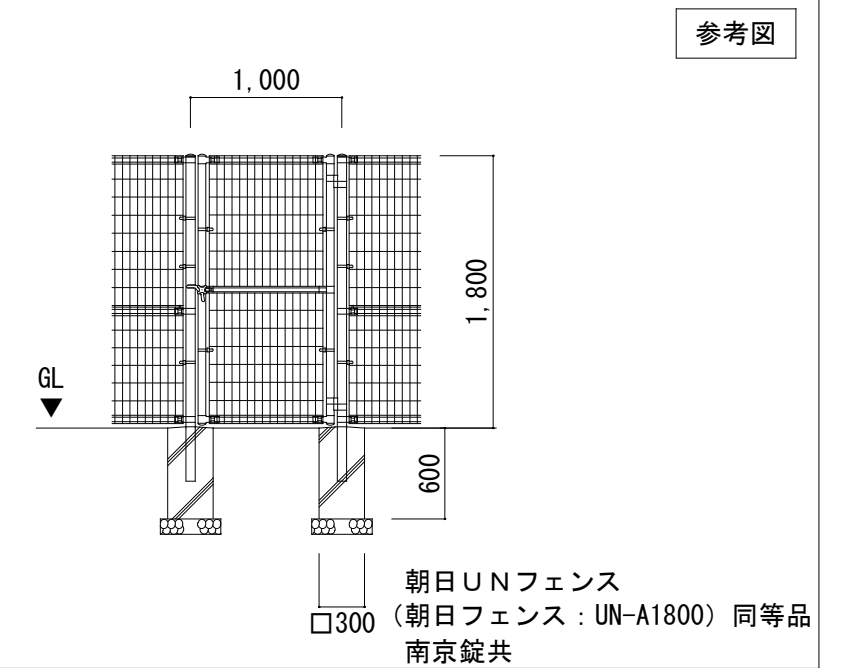


※建設発生土は場外自由処分とする。

メッシュフェンス 詳細図



メッシュフェンス扉 詳細図



外構図(教室棟)

S: 1/50

電気設備工事特記仕様書

I. 工事概要  
 1. 工事名称 **津市立成美小学校普通教室空調設備設置工事**  
 2. 工事場所 **津市 久居新町 地内**  
 3. 建物概要

建物概要	構造	階数	延べ面積 (㎡)	用途区分
管理教室棟	RC	3		7 項
教室棟	RC	3		7 項
計				

(延べ面積は建築基準法による表記)

4. 工事種目  
 主な工事種目は、下記の○印のついたものである。

工事種目	工事場所			
	管理教室棟	教室棟	屋外	
電力設備	○			
電灯設備	○			
動力設備	○	○		
保護設備				
接地設備				
受電設備			○	
電力貯蔵設備				
交流無停電電源設備				
電力平準化用蓄電設備				
分散電源設備				
発電設備				
ディーゼル発電設備				
ガスエンジン発電設備				
ガスタービン発電設備				
太陽光発電設備				
風力発電設備				
その他発電設備				
通信・情報設備				
構内情報通信網設備				
構内交換設備				
情報表示設備				
映像・音響設備				
拡声設備				
誘導支援設備				
テレビ共同受信設備				
テレビ電波障害防除設備				
監視カメラ設備				
駐車場管制設備				
防犯・入退室管理設備				
自動火災報知設備				
自動閉鎖設備				
非常警報設備				
ガス漏れ火災警報設備				
中央監視制御設備				
医療関係設備				
構内配電線路				
構内通信線路				
その他				

II. 共通仕様  
 1. 適用  
 図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。(最新のもの適用)  
 ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)  
 ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築設備工事標準仕様書」(電気設備工事編・機械設備工事編)  
 ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」「電気設備工事監理指針」「機械設備工事監理指針」  
 ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編)  
 ・国土交通省国土技術政策総合研究所及び独立行政法人建築研究所監修「建築設備耐震設計・施工指針」  
 ・電気設備に関する技術基準を定める省令(電気設備技術基準)  
 ・電気工事業の業務の適正化に関する法律  
 ・電気工事法  
 ・労働安全衛生法  
 ・消防関連法規(条例・所轄審指導要領を含む。)  
 ・電力会社供給約款  
 ・その他関連法令、関連基準

2. 一般共通事項  
 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、●印のついたものを適用する。

項目	特記事項
1. 一般事項	(1) 工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ図面に施工すること。 (2) 設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難、不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおりにより施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。 なお、設計図書のとおりにより施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。 (3) 他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。 なお、調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。
2. 施工中の安全確保及び環境保全	低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。
3. 足場	設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」(厚生労働省 平成21年4月)により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」も適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり組立て方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。
4. 三重県産業廃棄物税	本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に三重県産業廃棄物税支払い請求書に産業廃棄物納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。 また、産業廃棄物処理集計表(マニフェスト)の数の集計)を超えて請求することはできない。
5. 電気工作物の種類	・一般電気工作物 ● 自家用電気工作物 ・事業用電気工作物
6. 電気工率士	電気工事士法の区分により施工するものとし、契約電力が500k以上の電気工作物においても、第一電気工事士により施工するものとする。
7. 有資格者の配置	(1) 消防設備の工事に従事する者は、当該設備に関する甲種消防設備士の資格を有する者とする。 (2) 電話設備、その他施工に資格が必要なものについては、関係法令に基づいた有資格者を配置し、施工するものとする。
8. 電気工事業の業務の適正化に関する法律	電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。
9. 電気主任技術者との調整	自家用電気工作物等で電気主任技術者が選任されている施設で工事を行う場合は、電気保安技術者を選任し、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、指導を受けるものとする。 また、工事期間中の電気工作物の保安業務も行う。
10. 現場事務所等に備え付ける図書	下記の図書(最新版のもの)を備え付ける。 ① 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編) ② 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築設備工事標準仕様書」(電気設備工事編・機械設備工事編) ③ 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編) ④ 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」、「電気設備工事監理指針」、「機械設備工事監理指針」 ⑤ 工事写真の撮り方—建築設備編— ⑥ その他、監督員の指示する図書及び工事の容量計算等に必要図書
11. 施工計画等	受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。 なお、書類の作成においては、関連する関係者と充分に調整すること。 ① 総合施工計画書 包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。 ② 工事現場施工計画(施工要領書) 各種工種ごと作成し、停電及び搬入計画書も作成する。 ③ 施工図(プロット図、平面図、展開図、各種詳細図) 主要機器、重量機器、3kg超過吊器具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐荷性能を確保する施工方法を提案すること。 ④ 耐震計算書、幹線計算書等 ⑤ 照度分布図、センサ動作範囲図など
12. 品質計画	品質計画については、監督員の承諾を受けること。
13. 測定機器の校正等	試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書(写)又は有効期限内の精度保証書(写)等を提出する。
14. 機器類の能力等	機器類の能力、容量等(電動機出力は除く)は原則として表示された数値以上とする。
15. 工程表	関連業者間にて十分協議し実施工程表、月間工程表を作成して監督員に提出すること。 なお、月間工程表には埋設・隠蔽・高所等の施工確認項目の該当時期を印すること。
16. 工事写真	營銷工事写真撮影要領(平成28年版)に従い撮影すること。
17. 施工条件	監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。 1) 施工可能日 指定なし ●一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等) ・指定あり(・施設休業日 ・打ち合わせによる ・その他( )) 2) 施工可能時間帯 指定なし ●一部指定あり(振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等) ・指定あり(・ )時~( )時 ・打ち合わせによる ・その他( )) 3) 概成工期 ・適用する(工事期日より( )日前) ・適用しない 4) その他( ))
18. 事故の発生時	工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。 なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。
19. 建設副産物	(1) 請負額1億円以上の工事について、再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合、受注者は工事の着手までに「再生資源利用計画書」(建設資材を搬入する場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物を搬出する場合)を施工計画書に纏じ込んで監督員に提出する。 また、工事が変更又は完了した場合には「再生資源利用実施計画書」(建設資材を搬入した場合)及び「再生資源利用促進実施計画書」(建設副産物を搬出した場合)を作成し、監督員に提出する。 なお、計画書及び実施書の提出とともにJACICが運営する「建築副産物情報交換システム」へのデータ入力も併せて行う。 (2) 請負額1億円以上の工事について、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に従い、再資源化等が完了した後に報告書を提出すること。

20. 発生材の処理等

(1) 引き渡しを要するもの (撤去つづ )  
 上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。  
 (2) 特別管理産業廃棄物  
 ・ 変圧器 ・ コンデンサ  
 ・ その他 ( )  
 現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。  
 なお施工に際して、PCB等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。  
 (3) 現場内において再利用を図るもの  
 ・ 発生土 ( )  
 ・ その他 ( )  
 (4) 再資源化を図るもの  
 ・ コンクリート塊 ・ アスファルトコンクリート塊 ・ 建設発生木材  
 (5) 発注者へ引き渡しを要するものについては「現場発生品調書」を提出すること。  
 また、再利用を図るものについても調書を作成し、監督員へ提出すること。  
 (6) 引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。(マニフェストA、B、C、E、F頁を提示すること。)

21. 官公署への手続き  
 工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署へ必要な届出、手続き等を速滞なく行う。  
 なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。  
 ● 消防設備関係 ・ 電気工作物関係 ・ 受電関係 ・ 通信関係 ・ 建設工事関係 ( )

22. 消防関係の 手続き  
 (1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成  
 ● 本工事 ( ・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ● 機械設備工事 ) ・ 別途工事  
 (2) 防火対象物使用開始届出書  
 書類の作成 (電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入)を行うこと。  
 構内への設置 ● できる (施設管理者と協議) ・ できない

23. 工専用仮設物  
 24. 工専用電力、水、その他  
 (1) 本工事に必要な工専用電力、水等の費用は受注者の負担とする。  
 (2) 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し、送電した時から工事の範囲の電力料金も本工事に含まれる。また、本受電後、引渡しまでの電気主任技術者の設定及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。  
 新築、増築等で自家用電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手前から引渡しまでの電気安全管理等にかかる費用は本工事に含まれる。

25. 工事中等の保安管理  
 26. 搬入計画  
 大型機器、重量物の搬入前に、搬入経路の有効寸法(原・天井高さ、搬入経路上の曲がり等)、障害物(足場等)発生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。  
 発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するよう規格品及び製品名及び監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が製された施設において、監督員等が製品の確認をするものとする。

28. 機材等の検査及び試験  
 29. 完成確認及び完成検査時の電源確保  
 機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認するように電源を確保すること。

30. 完成時の操作説明  
 タイマ、総合盤、動力盤等操作に必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機例に備えるものとする。

31. 不正軽油の使用の禁止  
 市工場の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用させる車両(資機材の搬入車両を含む。)並びに建設機械等の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。  
 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下部負荷等に問題なく協力をよう管理及び監督しなければならない。  
 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下部負荷等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。  
 設計図書に定められていない事項は監督員に報告し、指示を受けるものとする。

32. その他

2. 施工仕様  
 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、●印のついたものを適用する。

項目	特記事項
1. 既設設備等の調査	既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に充分な調査を行うこと。 (1) 地中通信線路 1) 項目 ●埋設配管 ・ 構造物 ・ その他 ( ) 2) 調査範囲 ●埋設ルート ・ その他 ( ) (2) 貫通及びはびくり 1) 項目 ・ 鉄筋 ・ 配管 ・ その他 ( ) 2) 調査範囲 ・ 施工部分 ・ その他 ( ) (3) 既設との取合い 1) 項目 ●接続箇所 ・ 増設箇所 ・ その他 ( ) 2) 調査範囲 ・ 施工部分 ・ その他 ( )
2. 施工前の測定等	改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。 (1) 想定される地震に対応するものとする。 (2) 耐震計算書を監督員に提出するものとする。
3. 耐震施工	(1) 適用 耐震設計書の計算及び施工方法は、最新版の「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説」(建設大臣官庁官庁営繕部監修)及び「建築設備耐震設計・施工指針」(独立行政法人建築研究所監修)による。 (2) 設計用水平地震力 構架の重要に、設計用水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用水平地震度は次による。 設計用標準水平地震度(Ks)
4. 耐震基準	設計用標準水平地震度 (Ks)
5. はつり	(1) 穴開け及び補修 ●なし ・ あり (2) 溝はつり及び補修 ●なし ・ あり
6. あと施工アンカー	性能確認試験及び施工確認試験 ・ 行う ・ 行わない
7. 基礎の配線ピット	基礎に配線ピットを設ける場合、ピットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。
8. 配管・配線の耐震処置	建物引込部の配管の耐震処置 ・ 行う ・ 行わない 建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ・ 行う ・ 行わない
9. 最上階の埋込配管	最上階のコンクリート層スラブへの埋込配管は、原則として行わない。
10. 露出配管	(1) 雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。 (2) 壁面設備で人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下)の配管には、突起のない支持物又は保護カバーを使用する。 (3) 通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。 (4) 監督員の指示がある場合は、上記に依らずその指示に従う。
11. 合成樹脂管	(1) 合成樹脂管の管端には、フッングを取り付ける。 (2) 原則として屋外の露出には使用しない。(P管)
12. 金属製電線管等の塗装	(1) 露出配管、露出ボックス、鋼製ボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。 1) 屋外、屋内(電気室、機械室、EPS、居室、廊下)、その他建築基準上必要な箇所。 2) 図面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のホール及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。 (3) 湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。) 4) 仮種貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。 (2) 塗装はエッチングプライマー1種の下部処理のうえ、監督員の指定する色にて顔合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築基準上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。
13. 導入線	通路を行わない配管及び配線引き置き後に空となった配管には、導入線(φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等)を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。
14. ボックス類	位置ボックス及びジョイントボックス類は、図面に特記なき場合、原則として金属製とする。
15. 軽量間仕切のボックス	軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。
16. プルボックス	(1) 屋外形及び特別に製作された特殊形状又は大きいもの(一辺が600mm以上のもの)は、製作図を提出すること。 (2) 屋外形プルボックスと露出配管等の接続部は、カップリング溶接による。ただし、既設プルボックスに接続する場合は防水パテ等でシーリングを行う。 (3) 屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。
17. ボルト・ナット類	屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないもの ●ステンレス ・ 溶融亜鉛メッキ仕上げ
18. ケーブル及び配線	(1) 表示 下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示札(ケーブル種別及びサイズ、行き先、用途等を表示。)を取り付ける。 ① ケーブル分岐部分 ② プルボックス内 ③ マンホール及びハンドホールごと (2) ケーブル余長 1) 地中埋設の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数 ・ 2箇所 ・ 4箇所 ( )箇所 2) 架空構造の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数 ・ 2箇所 ・ 4箇所 ・ ( )箇所
19. 高圧ケーブル端末処理	高圧ケーブルの端末処理部、直線接続部等に処理者銘板(屋内外共に、線名、作業日、氏名等を表示。)を取り付ける。

20. 配線器具の設置	(1) 特殊コンセントはプラグ付とする。 (2) 電源の種類により色を区別する。 (3) 配線器具を取り付ける場合は金属の場合は、絶縁棒を使用する。 (4) プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。 (5) カバープレートは、原則として新金属製とする。 なお、器具を考慮しない位置ボックスは用途を示すものとする。 (6) フロアプレートは、水平高低調整型（空転防止リフト付）とする。
21. 照明器具の設置	(1) コードボックス以外の放電灯及び水気のある場所の器具は接地する。なお、金属配管の場合は、配管を利用してよい。（乾燥した場所のコンバト器具(27W以下)を除く。） (2) 接地線は電灯配線を同一太さのケーブルの1芯(緑色)を使用する。ただし、監督員の指示により1.6mmの絶縁電線(緑線)を添えることもできる。 (3) 照明器具を設置する前に、照度分布図を作成し監督員の承認を得ること。 (4) 照明器具取付完了後、照度を測定を行う。照度は一般形A級とする。 (5) 天井下地材より支持する場合は、ワイヤ等により脱落下防止の措置を行う。 (6) バイパス吊りの照明器具は振れ止めを施する。
22. 照明改修の際の測定	対象面の改修後の照度及び回路電流値の測定回次のとおり行うこと。 測定箇所( ) 測定回数( )回
23. 分電盤、制御盤、キュービクル等	(1) 図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を備える。 また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。 (2) 盤外キャビネット等で露出配管をボックスに接続する場合は、カップリングを溶接等行い接続部から雨水等が浸入しない方法とする。ただし、既設ボックスに接続する場合はロックナットとボックスの間にゴムパッキン等を取付け、接続部からの雨水等が浸入しないようにする。
24. 受変電設備、発電設備の設置場所	(1) 保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。 (2) 基礎の高さは周囲の状況を考慮する。 (3) 電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通過させない。
25. 発電設備の燃料配管	(1) フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。 (2) 配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。
26. 電波関係の計算及び測定	(1) 計算書の提出 電界強度測定結果による計算書提出 ・施工前 ・屋体上がり時 ・その他( ) (2) 測定の実施 ① 項目 全帯域チャンネルの電界強度、受働面電圧、等価C/N、ビット誤り率の測定及び映像写真の撮影を行う。 ② 測定時期 ・施工前 ・屋体上がり時 ・施工後 ・その他( ) ③ 報告書提出部数 ・2部 ・( )部
27. 土工	(1) 埋戻しの材料及び工法 ・B種(材料:根切り土中の良質土 / 工法:機器による締固め) ・その他( ) ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。 (2) 特記なき地中埋設配管の深さは、G <sub>L</sub> -600mm以上とする。 (3) 根切り種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布張り、外灯基礎、電柱等はつぼ掘りとする。 (4) 機械掘削は根切り底を乱さないようにする。
28. ハンドホール、マンホール	(1) 地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は、沈下対策を施す。 (2) 地耐力 ① 地耐力は、建築基準法施行令第93条の短期応力度とする。 ② 衝撃係数は、設置場所に応じた衝撃係数とする。 (3) 高さ900mmを超えるものには、タラップ付とする。 なお、タラップの取付は450mm間隔以内とし、原則として接地を施すこと。
29. 地中配線路の表示杭	下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。 ① 建物への引込口及び送出口付近 ② マンホール・ハンドホール付近 ③ 地中線路の出所箇所 ④ 道路横断箇所 ⑤ 直線部分は3.0m程度に1個

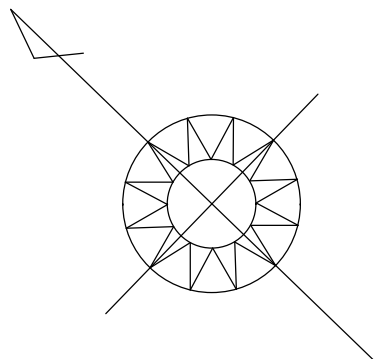
3. 機器仕様	下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、●印のついたものを適用する。なお、詳細については、図面による。
項目	特記事項
【電力設備】	
1. 電灯設備	(1) 既設等との取り合い ( ) (2) 機器類 ( ) (3) 一般照明器具 ( )
2. 機器類	( ) ( )
(3) 一般照明器具	( )
(4) 照明制御装置	( )
(5) 外灯(単独設置)	( )
(6) コンセント等	( )
(7) 分電盤、制御盤等	( )
(8) 接地	( )
(9) 接地抵抗の測定	( )
(10) 接地抵抗の測定	( )
(11) 接地抵抗の測定	( )
(12) 接地抵抗の測定	( )
(13) 接地抵抗の測定	( )
(14) 接地抵抗の測定	( )
(15) 接地抵抗の測定	( )
(16) 接地抵抗の測定	( )
(17) 接地抵抗の測定	( )
(18) 接地抵抗の測定	( )
(19) 接地抵抗の測定	( )
(20) 接地抵抗の測定	( )
(21) 接地抵抗の測定	( )
(22) 接地抵抗の測定	( )
(23) 接地抵抗の測定	( )
(24) 接地抵抗の測定	( )
(25) 接地抵抗の測定	( )
(26) 接地抵抗の測定	( )
(27) 接地抵抗の測定	( )
(28) 接地抵抗の測定	( )
(29) 接地抵抗の測定	( )
(30) 接地抵抗の測定	( )
(31) 接地抵抗の測定	( )
(32) 接地抵抗の測定	( )
(33) 接地抵抗の測定	( )
(34) 接地抵抗の測定	( )
(35) 接地抵抗の測定	( )
(36) 接地抵抗の測定	( )
(37) 接地抵抗の測定	( )
(38) 接地抵抗の測定	( )
(39) 接地抵抗の測定	( )
(40) 接地抵抗の測定	( )
(41) 接地抵抗の測定	( )
(42) 接地抵抗の測定	( )
(43) 接地抵抗の測定	( )
(44) 接地抵抗の測定	( )
(45) 接地抵抗の測定	( )
(46) 接地抵抗の測定	( )
(47) 接地抵抗の測定	( )
(48) 接地抵抗の測定	( )
(49) 接地抵抗の測定	( )
(50) 接地抵抗の測定	( )
(51) 接地抵抗の測定	( )
(52) 接地抵抗の測定	( )
(53) 接地抵抗の測定	( )
(54) 接地抵抗の測定	( )
(55) 接地抵抗の測定	( )
(56) 接地抵抗の測定	( )
(57) 接地抵抗の測定	( )
(58) 接地抵抗の測定	( )
(59) 接地抵抗の測定	( )
(60) 接地抵抗の測定	( )
(61) 接地抵抗の測定	( )
(62) 接地抵抗の測定	( )
(63) 接地抵抗の測定	( )
(64) 接地抵抗の測定	( )
(65) 接地抵抗の測定	( )
(66) 接地抵抗の測定	( )
(67) 接地抵抗の測定	( )
(68) 接地抵抗の測定	( )
(69) 接地抵抗の測定	( )
(70) 接地抵抗の測定	( )
(71) 接地抵抗の測定	( )
(72) 接地抵抗の測定	( )
(73) 接地抵抗の測定	( )
(74) 接地抵抗の測定	( )
(75) 接地抵抗の測定	( )
(76) 接地抵抗の測定	( )
(77) 接地抵抗の測定	( )
(78) 接地抵抗の測定	( )
(79) 接地抵抗の測定	( )
(80) 接地抵抗の測定	( )
(81) 接地抵抗の測定	( )
(82) 接地抵抗の測定	( )
(83) 接地抵抗の測定	( )
(84) 接地抵抗の測定	( )
(85) 接地抵抗の測定	( )
(86) 接地抵抗の測定	( )
(87) 接地抵抗の測定	( )
(88) 接地抵抗の測定	( )
(89) 接地抵抗の測定	( )
(90) 接地抵抗の測定	( )
(91) 接地抵抗の測定	( )
(92) 接地抵抗の測定	( )
(93) 接地抵抗の測定	( )
(94) 接地抵抗の測定	( )
(95) 接地抵抗の測定	( )
(96) 接地抵抗の測定	( )
(97) 接地抵抗の測定	( )
(98) 接地抵抗の測定	( )
(99) 接地抵抗の測定	( )
(100) 接地抵抗の測定	( )

(5) 断路器	(1) 形式 (2) 動作方式
(6) 負荷開閉器	(1) 形式 (2) 配電用途
(7) 変圧器	(1) 形式 (2) 設置方式 (3) ダイアル温度計
(8) 進相コンデンサ	(1) 絶縁方式 (2) その他
(9) 直列リアクトル(進相コンデンサ用)	(1) 絶縁方式 (2) 容量 (3) その他
(10) 設備不平衡	高圧受電の三相3線式における不平衡の制限は、設備不平衡率が30%以下となるようにする。
(11) キュービクル等	鉄板には、公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。
(12) 基礎	( )
(13) 配線ピッド及び壁	( )
(14) 設置場所	( )
【電力貯蔵設備】	
6. 直流電源設備	(1) 用途 (2) 容量
(3) 配線装置	( )
(4) 蓄電池	( )
7. 交流無停電電源設備	(1) 用途 (2) 容量 (3) 給電方式 (4) 整流装置等 (5) 蓄電池 (6) 性能
8. 電力平準化用蓄電設備	(1) 用途 (2) 機能 (3) 蓄電池 (4) 性能
9. 分散電源	( )
【発電設備】	
10. 燃料系発電設備	(1) 用途 (2) 区分 (3) 機器 (4) 発電装置
(5) 燃料槽	( )
(6) 燃料槽	( )
(7) 給油ボックス	( )
(8) 燃料移送ポンプ	( )
(9) 基礎	( )

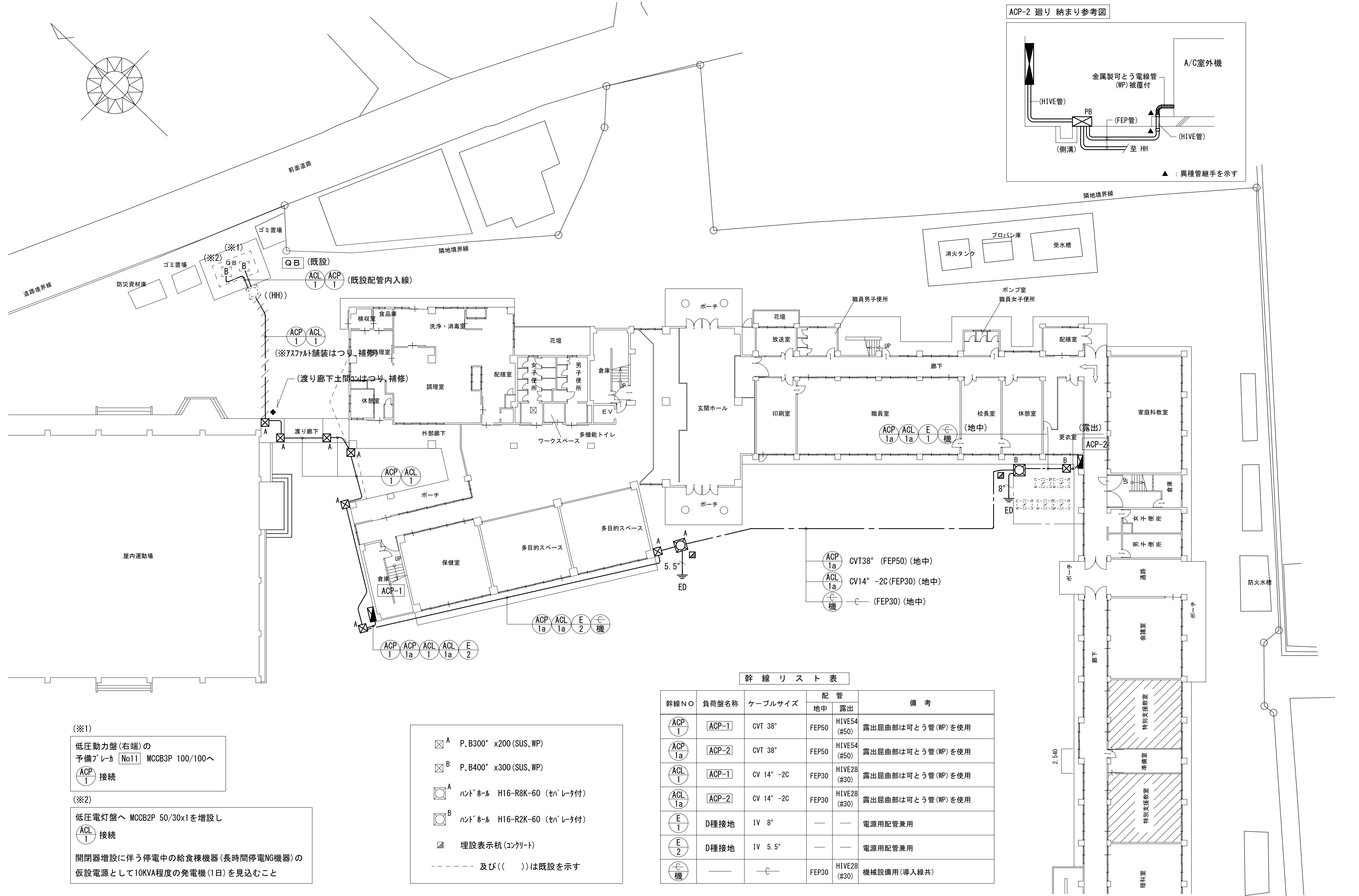
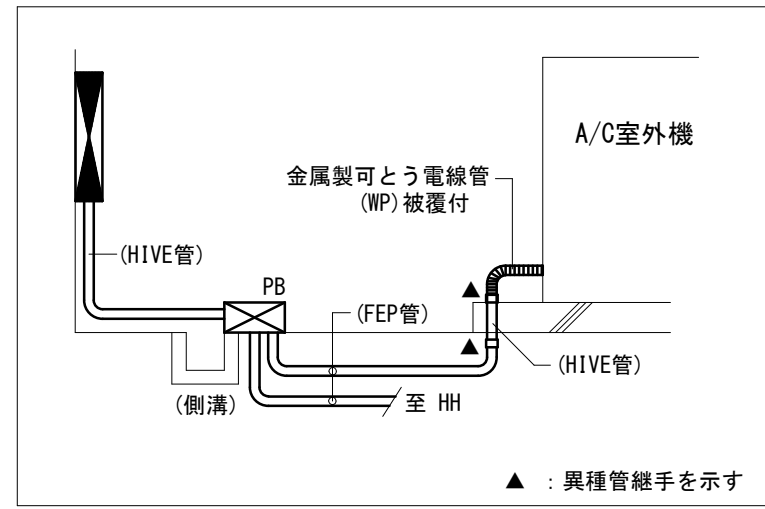
11. 太陽光発電設備	(1) 機器 (2) 太陽電池アレイ (3) パワーコンディショナ及び系統連系保護装置 (4) 情報処理装置 (5) 仕様詳細
12. 風力発電設備	(1) 機器 (2) 風車発電装置 (3) 制御盤 (4) 支持構造物 (5) 情報処理装置 (6) 仕様詳細
13. その他発電設備	( )の仕様詳細は別図による。 【通信・情報設備】 14. 構内情報通信網設備 (1) LAN (2) WAN (3) ケーブル (4) アウトレット 15. 構内交換設備 (1) 機器 (2) 交換装置 (3) 電話機 (4) 端子盤類 (5) アウトレット 16. 情報表示設備 (1) 設備 (2) マルチサイン装置 (3) 出退表示装置 (4) 時刻表示装置

<p>17. 映像・音響設備</p> <p>(1) 設備</p> <p>(2) 映像機器</p> <p>(3) 音響機器</p> <p>(4) 操作装置</p> <p>18. 拡声設備</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 増幅器</p> <p>(3) 付属機器</p> <p>(4) 操作装置</p> <p>(5) スピーカー</p> <p>19. 誘導支援設備</p> <p>(1) 設備</p> <p>(2) 音声誘導装置</p> <p>(3) インターホン</p> <p>(4) トイレ等呼出装置</p> <p>20. テレビ共同受信設備</p> <p>(1) 受信放送</p> <p>(2) 機器</p> <p>(3) アンテナ</p> <p>21. テレビ電波障害防除設備</p> <p>(1) 対象戸数</p> <p>(2) 機器</p> <p>(3) アンテナ</p> <p>22. 監視カメラ設備</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 伝送方式</p> <p>(3) カメラ</p> <p>(4) モニタ装置</p> <p>(5) 録画装置</p>	<p>23. 駐車場管理設備</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 管制盤</p> <p>(3) 検知器</p> <p>(4) 番号灯・警報灯</p> <p>(5) 発券機</p> <p>(6) カーゲート</p> <p>24. 防犯・入室管理設備</p> <p>(1) 設備</p> <p>(2) 防犯装置</p> <p>(3) 入室管理装置</p> <p>25. 自動火災報知設備</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 受信機</p> <p>(3) 副受信機 (表示装置)</p> <p>(4) 中継器</p> <p>(5) 発信機</p> <p>(6) 感知器</p> <p>26. 自動閉鎖設備</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 運動制御器</p> <p>(3) 感知器</p> <p>(4) 自動閉鎖装置</p> <p>(5) 自動開錠装置</p> <p>27. 非常警報設備</p> <p>(1) 設備</p> <p>(2) 非常放送装置</p> <p>(3) 非常ベル (自動式サイレンを含む)</p> <p>28. ガス漏れ火災警報設備</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 受信機</p> <p>(3) 副受信機</p> <p>(4) 検知器</p>	<p>【中央監視制御設備】</p> <p>29. 非中央監視制御設備</p> <p>(1) 監視制御対象設備</p> <p>(2) 既設との取合い</p> <p>(3) 機器</p> <p>(4) 機能</p> <p>(5) 監視操作装置</p> <p>(6) 信号処理装置</p> <p>(7) 記録装置</p> <p>【医療関係設備】</p> <p>30. 非医療電源用分電盤</p> <p>(1) 機器</p> <p>(2) 仕様詳細</p> <p>31. ナースコール設備</p> <p>(1) 形式</p> <p>(2) 仕様詳細</p> <p>【構内配電線路】</p> <p>32. 構内配電線路</p> <p>(1) 配線方式</p> <p>(2) 建柱</p> <p>(3) 装柱機器 (高圧用)</p> <p>(4) 装柱機器 (低圧用)</p> <p>(5) ハンドホール・マンホール</p> <p>(6) 鉄架差</p> <p>(7) 地中ケーブル保護材料</p> <p>【構内通信線路】</p> <p>33. 構内通信線路</p> <p>(1) 用途</p> <p>(2) 配線方式</p> <p>(3) 建柱</p> <p>(4) ハンドホール・マンホール</p> <p>(5) 鉄架差</p> <p>(6) 地中ケーブル保護材料</p> <p>【その他】</p> <p>34. 消火器</p>	<p>Ⅲ. 機器標準取付高さ標準的な高さであり、詳細については監督員と協議する。(○印はバリアフリー対応)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>名 称</th> <th>側 点</th> <th>取付高さ (mm)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">電力</td> <td>接地端子盤</td> <td>床上～下端</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取引用計器</td> <td>地上～窓中心</td> <td>1,800～2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>引込閉閉器</td> <td>床上～中心</td> <td>1,800～2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">電灯</td> <td>分電盤</td> <td>床上～中心</td> <td>1,500</td> <td>上端1,900mm</td> </tr> <tr> <td>スイッチ</td> <td>床上～中心</td> <td>1,300</td> <td>○1,000mm</td> </tr> <tr> <td>コンセント (一般)</td> <td>床上～中心</td> <td>300</td> <td>○400mm</td> </tr> <tr> <td>コンセント (和室)</td> <td>床上～中心</td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンセント (台上)</td> <td>床上～中心</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンセント (W/P)</td> <td>床上～中心</td> <td>1,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンセント (地下)</td> <td>床上～中心</td> <td>1,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンセント (土間)</td> <td>床上～中心</td> <td>500</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ブラケット (一般)</td> <td>床上～中心</td> <td>2,100～2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ブラケット (鏡上)</td> <td>鏡上端～中心</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ブラケット (処理場)</td> <td>床上～中心</td> <td>2,500</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">動力</td> <td>壁掛型制御盤</td> <td>床上～中心</td> <td>1,500</td> <td>上端1,900mm</td> </tr> <tr> <td>手元開閉器</td> <td>床上～中心</td> <td>1,500</td> <td></td> </tr> <tr> <td>操作スイッチ</td> <td>床上～中心</td> <td>1,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>端子盤</td> <td>床上～下端</td> <td>300</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">電話</td> <td>保安器盤</td> <td>床上～中心</td> <td>2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁位置ボックス</td> <td>床上～中心</td> <td>300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁位置ボックス (和室)</td> <td>床上～中心</td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">時計・拡声</td> <td>壁掛型時計</td> <td>床上～中心</td> <td>1,500</td> <td>上端1,900mm</td> </tr> <tr> <td>子時計</td> <td>床上～中心</td> <td>2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁掛型スピーカー</td> <td>床上～中心</td> <td>2,300</td> <td>2,500mm</td> </tr> <tr> <td>アッテネータ</td> <td>床上～中心</td> <td>1,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">表示</td> <td>表示器</td> <td>床上～中心</td> <td>2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受付発信器</td> <td>床上～中心</td> <td>1,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベル・ブザー・チャイム</td> <td>床上～中心</td> <td>2,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁位置ボックス</td> <td>床上～中心</td> <td>300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁位置ボックス (和室)</td> <td>床上～中心</td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">インターホン</td> <td>子機 (身障者用)</td> <td>床上～中心</td> <td>1,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>呼び出しボタン (身障者用)</td> <td>床上～中心</td> <td>800～950</td> <td>便座先端から後方100～200mm 2個目 (高700mm、便座先端から前方400mm)</td> </tr> <tr> <td>表示灯 (身障者用)</td> <td>床上～中心</td> <td>1,800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機器収容箱</td> <td>床上～中心</td> <td>2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">テレビ</td> <td>直列ユニット</td> <td>床上～中心</td> <td>300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>直列ユニット (和室)</td> <td>床上～中心</td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">火災報知</td> <td>受信機・副受信機</td> <td>床上～中心</td> <td>1,500</td> <td></td> </tr> <tr> <td>発信器</td> <td>床上～中心</td> <td>1,300</td> <td></td> </tr> <tr> <td>表示灯</td> <td>床上～中心</td> <td>1,800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベル</td> <td>床上～中心</td> <td>2,300</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>参考資料：高齢者が居住する住宅の設計に係る指針 (最終改正 平成21年国土省告示第906号) ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例 整備基準の解説等 (平成25年4月 三重県)</p>		名 称	側 点	取付高さ (mm)	備 考	電力	接地端子盤	床上～下端			取引用計器	地上～窓中心	1,800～2,000		引込閉閉器	床上～中心	1,800～2,000		電灯	分電盤	床上～中心	1,500	上端1,900mm	スイッチ	床上～中心	1,300	○1,000mm	コンセント (一般)	床上～中心	300	○400mm	コンセント (和室)	床上～中心	200		コンセント (台上)	床上～中心	150		コンセント (W/P)	床上～中心	1,000		コンセント (地下)	床上～中心	1,000		コンセント (土間)	床上～中心	500		ブラケット (一般)	床上～中心	2,100～2,300		ブラケット (鏡上)	鏡上端～中心	150		ブラケット (処理場)	床上～中心	2,500		動力	壁掛型制御盤	床上～中心	1,500	上端1,900mm	手元開閉器	床上～中心	1,500		操作スイッチ	床上～中心	1,300		端子盤	床上～下端	300		電話	保安器盤	床上～中心	2,000		壁位置ボックス	床上～中心	300		壁位置ボックス (和室)	床上～中心	200		時計・拡声	壁掛型時計	床上～中心	1,500	上端1,900mm	子時計	床上～中心	2,300		壁掛型スピーカー	床上～中心	2,300	2,500mm	アッテネータ	床上～中心	1,300		表示	表示器	床上～中心	2,300		受付発信器	床上～中心	1,300		ベル・ブザー・チャイム	床上～中心	2,300		壁位置ボックス	床上～中心	300		壁位置ボックス (和室)	床上～中心	200		インターホン	子機 (身障者用)	床上～中心	1,100		呼び出しボタン (身障者用)	床上～中心	800～950	便座先端から後方100～200mm 2個目 (高700mm、便座先端から前方400mm)	表示灯 (身障者用)	床上～中心	1,800		機器収容箱	床上～中心	2,000		テレビ	直列ユニット	床上～中心	300		直列ユニット (和室)	床上～中心	200		火災報知	受信機・副受信機	床上～中心	1,500		発信器	床上～中心	1,300		表示灯	床上～中心	1,800		ベル	床上～中心	2,300	
	名 称	側 点	取付高さ (mm)	備 考																																																																																																																																																																													
電力	接地端子盤	床上～下端																																																																																																																																																																															
	取引用計器	地上～窓中心	1,800～2,000																																																																																																																																																																														
	引込閉閉器	床上～中心	1,800～2,000																																																																																																																																																																														
	電灯	分電盤	床上～中心	1,500	上端1,900mm																																																																																																																																																																												
		スイッチ	床上～中心	1,300	○1,000mm																																																																																																																																																																												
		コンセント (一般)	床上～中心	300	○400mm																																																																																																																																																																												
		コンセント (和室)	床上～中心	200																																																																																																																																																																													
		コンセント (台上)	床上～中心	150																																																																																																																																																																													
コンセント (W/P)	床上～中心	1,000																																																																																																																																																																															
コンセント (地下)	床上～中心	1,000																																																																																																																																																																															
コンセント (土間)	床上～中心	500																																																																																																																																																																															
ブラケット (一般)	床上～中心	2,100～2,300																																																																																																																																																																															
ブラケット (鏡上)	鏡上端～中心	150																																																																																																																																																																															
ブラケット (処理場)	床上～中心	2,500																																																																																																																																																																															
動力	壁掛型制御盤	床上～中心	1,500	上端1,900mm																																																																																																																																																																													
	手元開閉器	床上～中心	1,500																																																																																																																																																																														
	操作スイッチ	床上～中心	1,300																																																																																																																																																																														
	端子盤	床上～下端	300																																																																																																																																																																														
電話	保安器盤	床上～中心	2,000																																																																																																																																																																														
	壁位置ボックス	床上～中心	300																																																																																																																																																																														
	壁位置ボックス (和室)	床上～中心	200																																																																																																																																																																														
	時計・拡声	壁掛型時計	床上～中心	1,500	上端1,900mm																																																																																																																																																																												
子時計		床上～中心	2,300																																																																																																																																																																														
壁掛型スピーカー		床上～中心	2,300	2,500mm																																																																																																																																																																													
アッテネータ		床上～中心	1,300																																																																																																																																																																														
表示		表示器	床上～中心	2,300																																																																																																																																																																													
	受付発信器	床上～中心	1,300																																																																																																																																																																														
	ベル・ブザー・チャイム	床上～中心	2,300																																																																																																																																																																														
	壁位置ボックス	床上～中心	300																																																																																																																																																																														
	壁位置ボックス (和室)	床上～中心	200																																																																																																																																																																														
インターホン	子機 (身障者用)	床上～中心	1,100																																																																																																																																																																														
	呼び出しボタン (身障者用)	床上～中心	800～950	便座先端から後方100～200mm 2個目 (高700mm、便座先端から前方400mm)																																																																																																																																																																													
	表示灯 (身障者用)	床上～中心	1,800																																																																																																																																																																														
	機器収容箱	床上～中心	2,000																																																																																																																																																																														
テレビ	直列ユニット	床上～中心	300																																																																																																																																																																														
	直列ユニット (和室)	床上～中心	200																																																																																																																																																																														
火災報知	受信機・副受信機	床上～中心	1,500																																																																																																																																																																														
	発信器	床上～中心	1,300																																																																																																																																																																														
	表示灯	床上～中心	1,800																																																																																																																																																																														
ベル	床上～中心	2,300																																																																																																																																																																															





ACP-2 廻り 納まり参考図



(※1)  
 低圧動力盤(右端)の  
 予備ブレーカ No11 MCCB3P 100/100へ  
 ACP1 接続

(※2)  
 低圧電灯盤へ MCCB2P 50/30x1を増設し  
 ACL1 接続  
 開閉器増設に伴う停電中の給食棟機器(長時間停電NG機器)の  
 仮設電源として10KVA程度の発電機(1日)を見込むこと

- ⊠ A P、B300° x200 (SUS、WP)
- ⊠ B P、B400° x300 (SUS、WP)
- ⊠ A ハンドホール H16-R8K-60 (セパレータ付)
- ⊠ B ハンドホール H16-R2K-60 (セパレータ付)
- 埋設表示杭(コンクリート)
- 及び( )は既設を示す

- ACP1a CVT38° (FEP50) (地中)
- ACL1a CV14° -2C (FEP30) (地中)
- 機 C (FEP30) (地中)

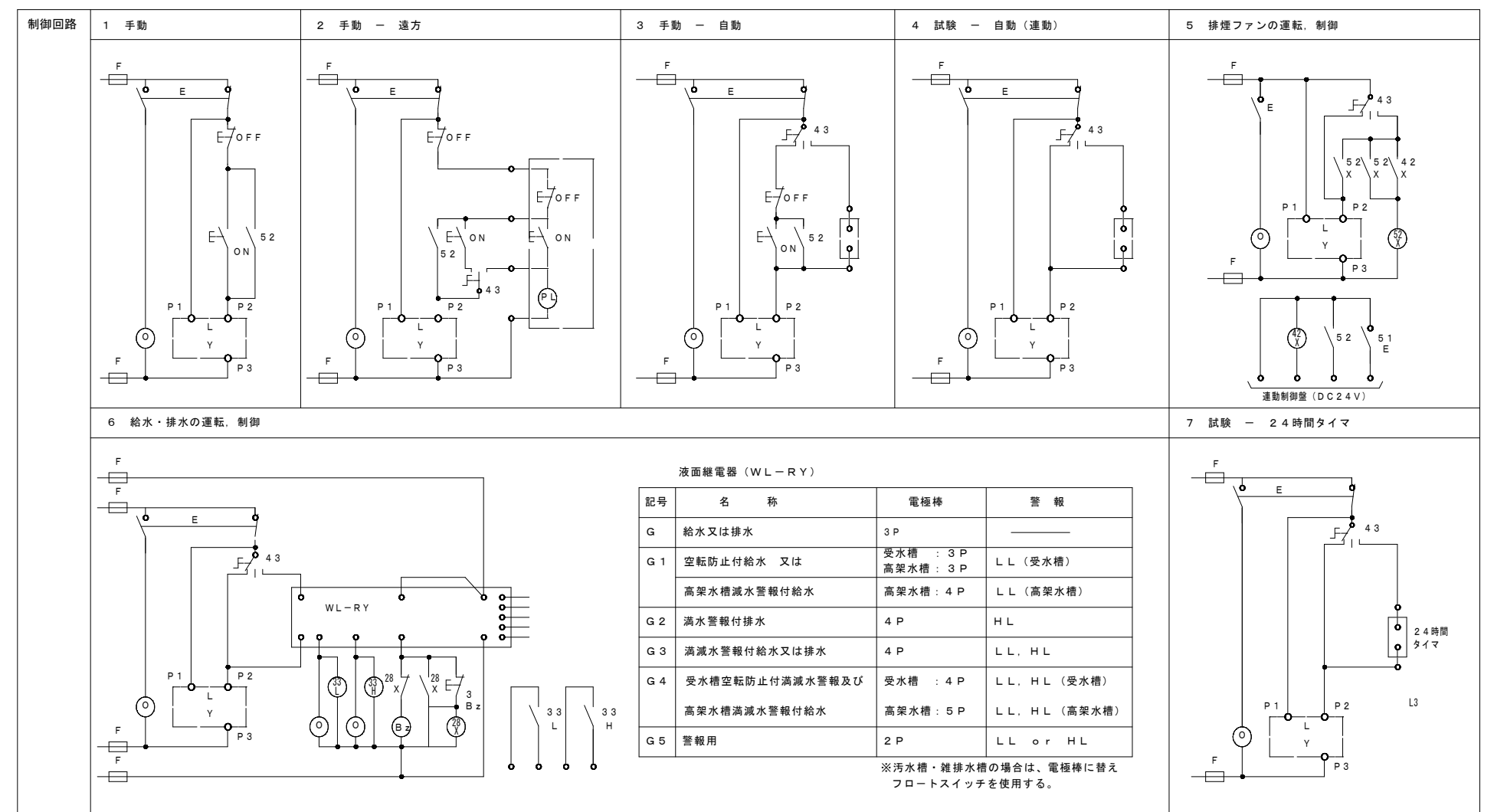
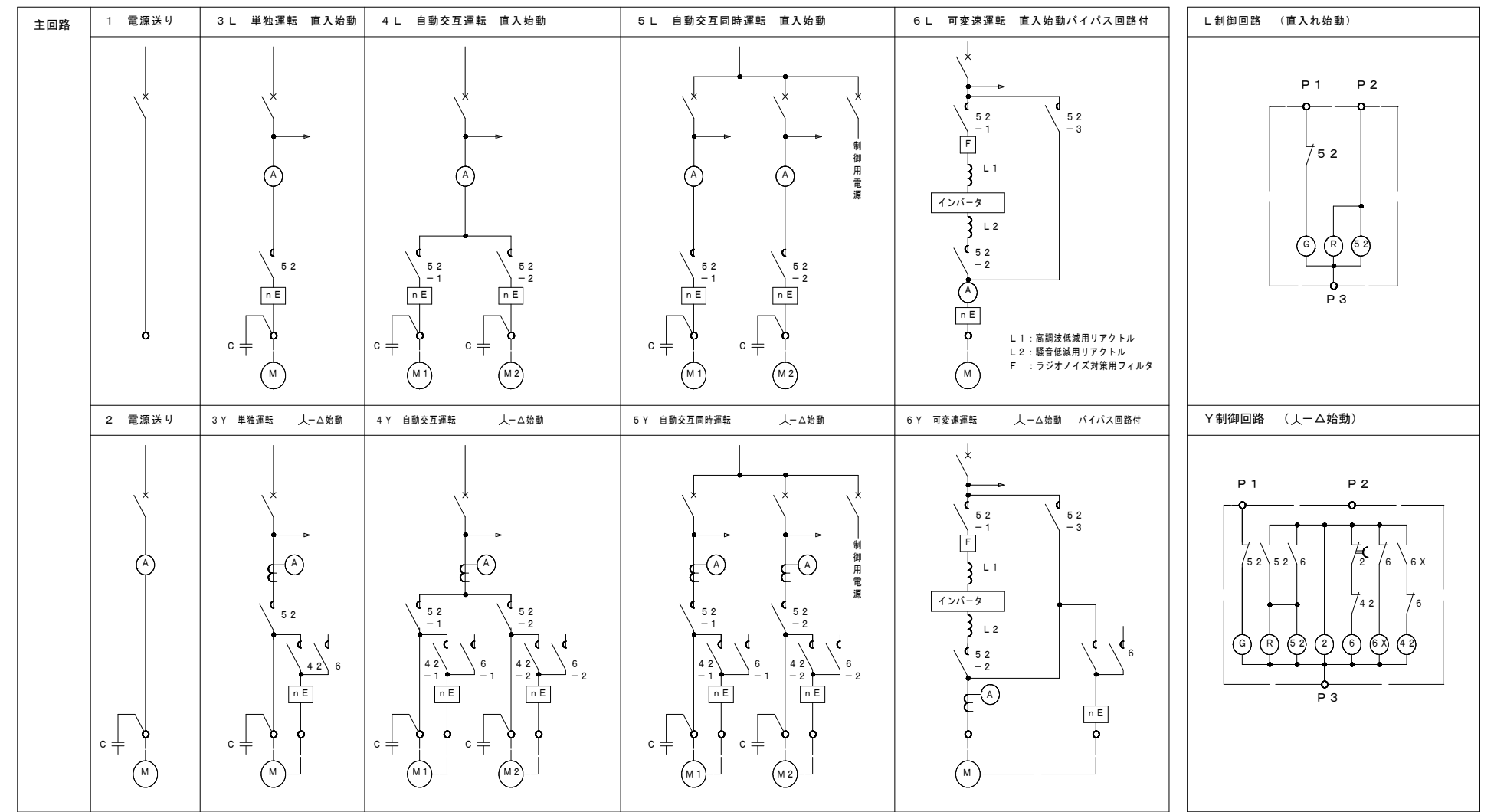
幹線リスト表

幹線NO	負荷盤名称	ケーブルサイズ	配管		備考
			地中	露出	
ACP1	ACP-1	CVT 38°	FEP50	HIVE54 (#50)	露出屈曲部は可とう管(WP)を使用
ACP1a	ACP-2	CVT 38°	FEP50	HIVE54 (#50)	露出屈曲部は可とう管(WP)を使用
ACL1	ACP-1	CV 14° -2C	FEP30	HIVE28 (#30)	露出屈曲部は可とう管(WP)を使用
ACL1a	ACP-2	CV 14° -2C	FEP30	HIVE28 (#30)	露出屈曲部は可とう管(WP)を使用
E1	D種接地	IV 8°	—	—	電源用配管兼用
E2	D種接地	IV 5.5°	—	—	電源用配管兼用
機	—	—	FEP30	HIVE28 (#30)	機械設備用(導入線共)

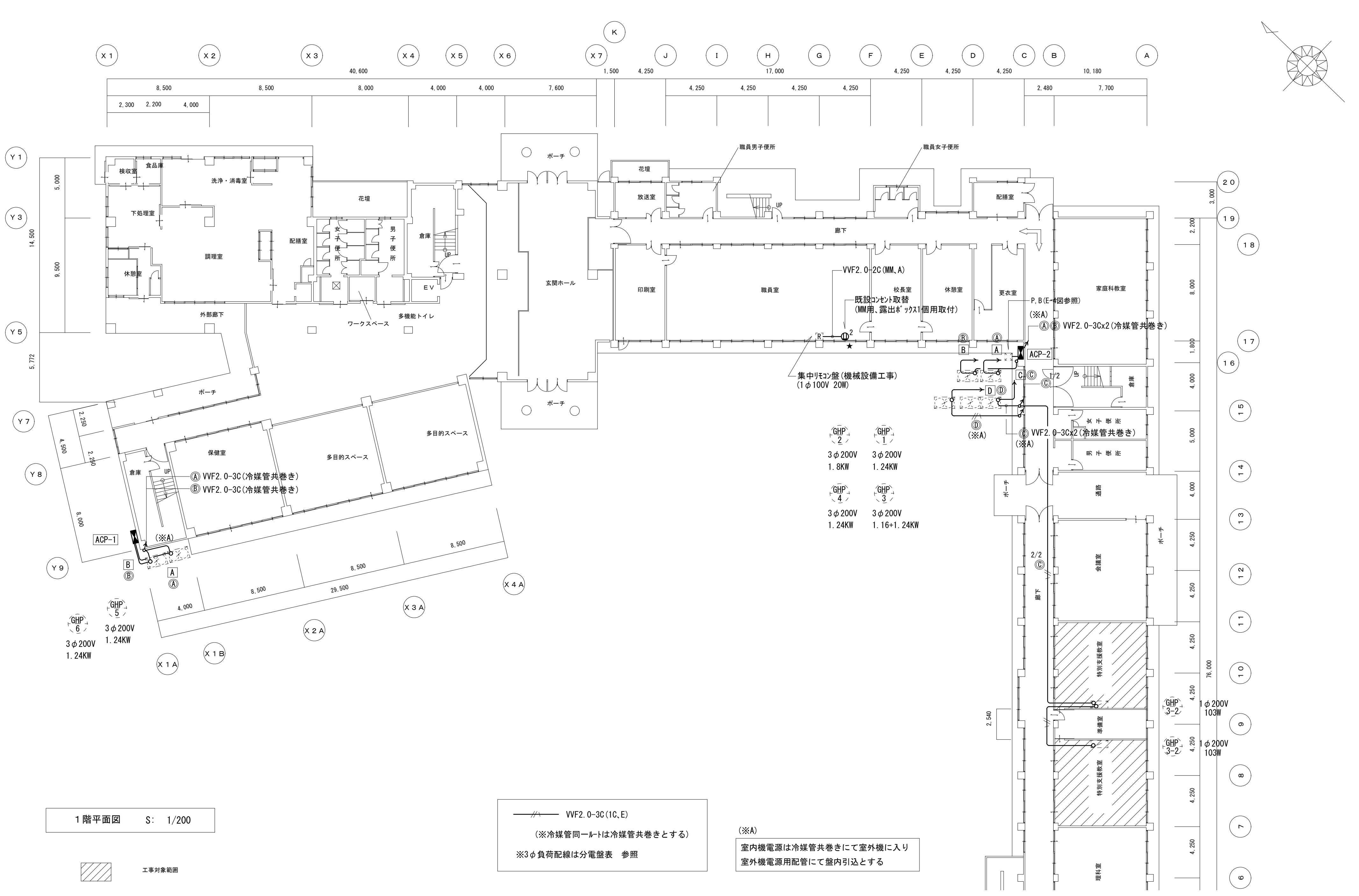
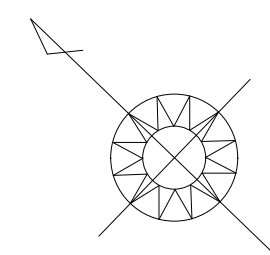
動力制御盤表

盤名称 盤形式	盤内結線 主開閉器 負荷合計	負荷名称	容量 (KW)	台数	分岐開閉器	結線記号 主回路 制御回路	電流			表示	運転 インター ロック	備考	
							計	運転	故障				
ACP-1 屋外型 SUS製、WP 壁掛型	38° MCCB 3P 50/30	ACP-2 送り									ACP 1a		
		GHP-5	1.24	1	ELCB 3P 30/15	1					A	30mA 0.1sec以下 (インバータ回路用) VF2.0-3C E1.6 (HIVE28) (#30)	
		GHP-6	1.24	1	ELCB 3P 30/15	1					B	30mA 0.1sec以下 (インバータ回路用) VF2.0-3C E1.6 (HIVE28) (#30)	
		予備ス^-ス			ELCB 3P 50/								
		予備ス^-ス			ELCB 3P 50/								
		計	2.48KW										
		14° MCCB 2P 50/20	ACP-2 送り										ACL 1a
		GHP-5系屋内機	0.309	1	ELCB 2P 50/20	1					A	30mA 0.1sec以下 (1φ200V) VF2.0-3C	
		GHP-6系屋内機	0.309	1	ELCB 2P 50/20	1					B	30mA 0.1sec以下 (1φ200V) VF2.0-3C	
		計	0.618KW										※冷媒管と同一ルートは冷媒管共巻きとする
ACP-2 屋外型 SUS製、WP 壁掛型	38° MCCB 3P 100/60	ACP-2 送り									ACP 1a		
		GHP-1	1.24	1	ELCB 3P 30/15	1				A	30mA 0.1sec以下 (インバータ回路用) VF2.0-3C E1.6 (HIVE28) (#30)		
		GHP-2	1.8	1	ELCB 3P 30/15	1					B	30mA 0.1sec以下 (インバータ回路用) VF2.0-3C E1.6 (HIVE28) (#30)	
		GHP-3	2.48	1	ELCB 3P 30/30	1					C	30mA 0.1sec以下 (インバータ回路用) VF2.0-3C E1.6 (HIVE28) (#30)	
		GHP-4	1.24	1	ELCB 3P 30/15	1					D	30mA 0.1sec以下 (インバータ回路用) VF2.0-3C E1.6 (HIVE28) (#30)	
		予備ス^-ス			ELCB 3P 50/								
		予備ス^-ス			ELCB 3P 50/								
		計	6.76KW										
		14° MCCB 2P 50/20	ACP-2 送り										ACL 1a
		GHP-1系屋内機	0.309	1	ELCB 2P 50/20	1					A	30mA 0.1sec以下 (1φ200V) VF2.0-3C	
GHP-2系屋内機	0.393	1	ELCB 2P 50/20	1					B	30mA 0.1sec以下 (1φ200V) VF2.0-3C			
GHP-3系屋内機	0.580	1	ELCB 2P 50/20	1					C	30mA 0.1sec以下 (1φ200V) VF2.0-3C			
GHP-4系屋内機	0.309	1	ELCB 2P 50/20	1					D	30mA 0.1sec以下 (1φ200V) VF2.0-3C			
計	1.591KW										※冷媒管と同一ルートは冷媒管共巻きとする		

基本回路図および基本制御回路図





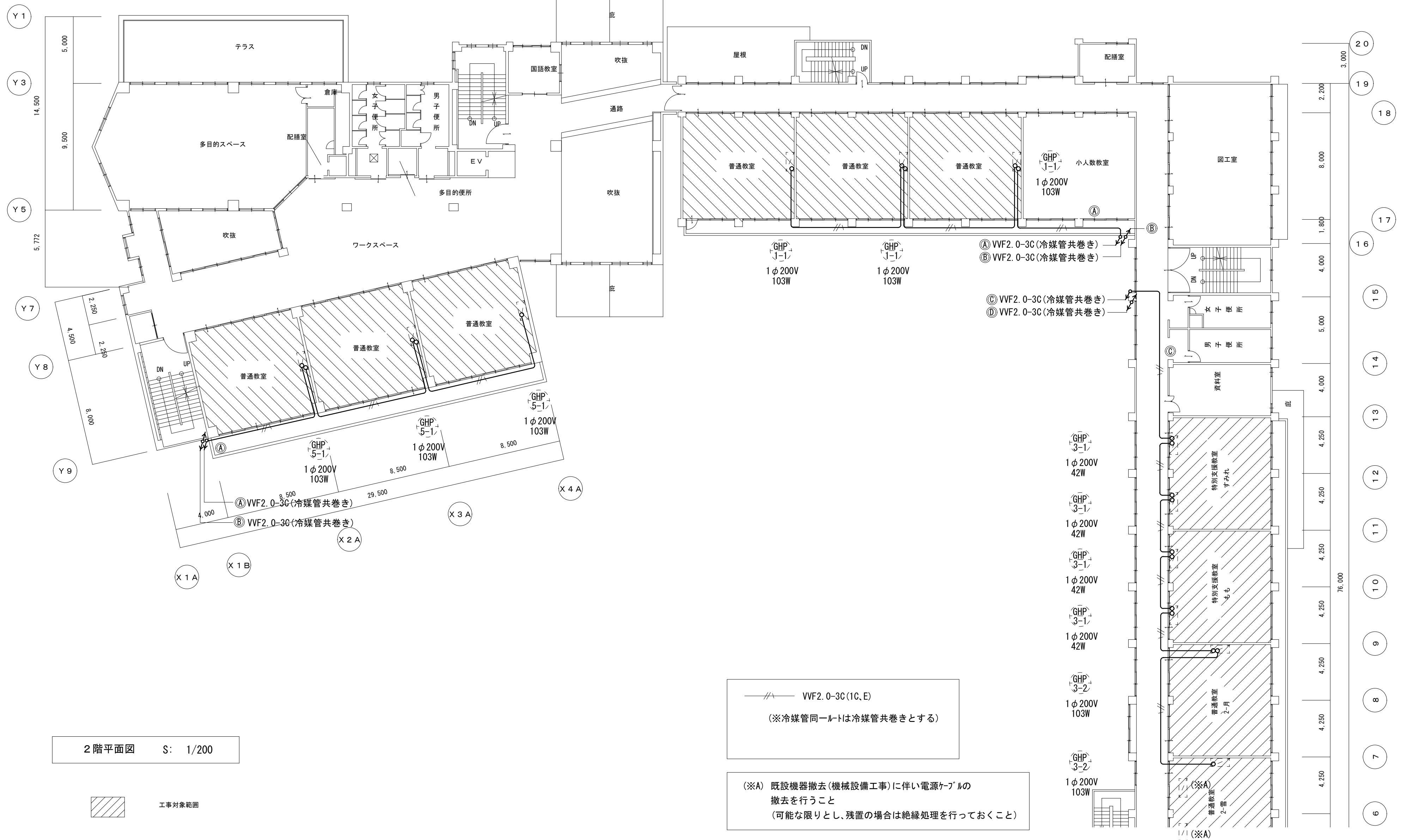
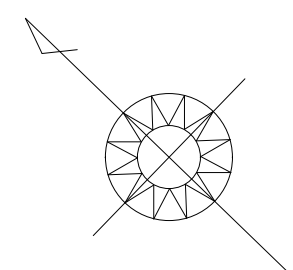
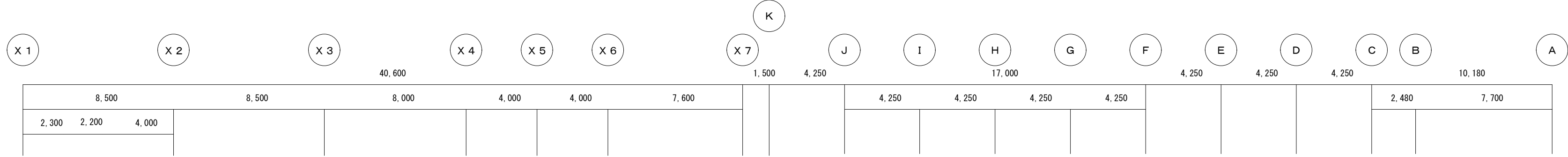


1階平面図 S: 1/200

工事対象範囲

VVF2.0-3C(1C,E)  
 (※冷媒管同一ルートは冷媒管共巻きとする)  
 ※3φ負荷配線は分電盤表 参照

(※A)  
 室内機電源は冷媒管共巻きにて室外機に入り  
 室外機電源用配管にて盤内引込とする



2階平面図 S: 1/200

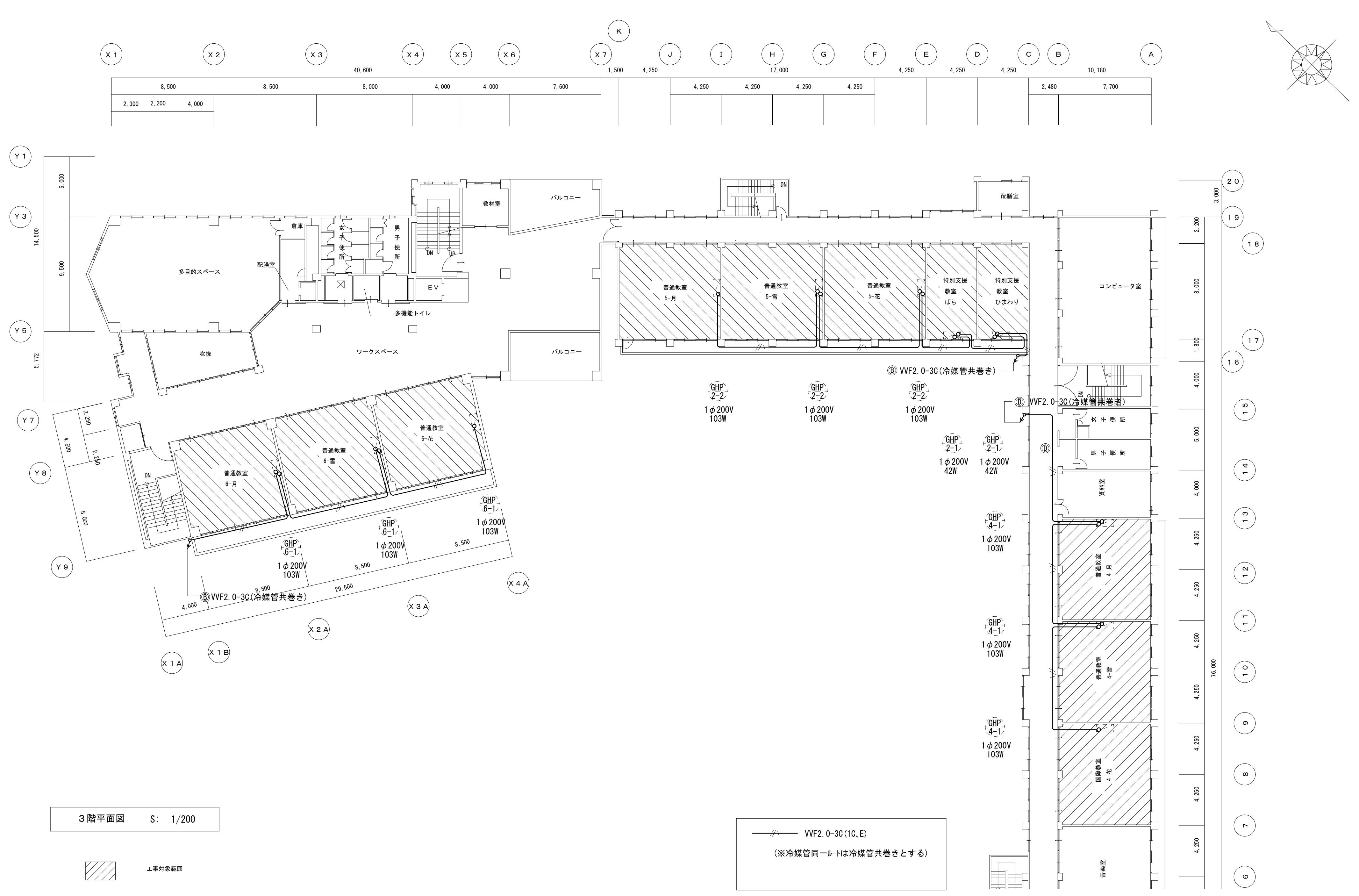
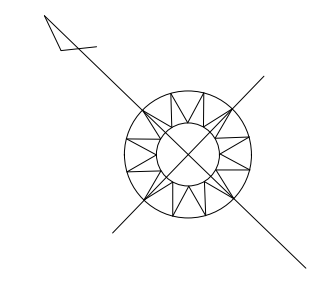
工事対象範囲

--- VVF2.0-3C(1C,E)  
 (※冷媒管同一ルートは冷媒管共巻きとする)

(※A) 既設機器撤去(機械設備工事)に伴い電源ケーブルの撤去を行うこと  
 (可能な限りとし、残置の場合は絶縁処理を行っておくこと)

- Ⓐ VVF2.0-3C(冷媒管共巻き)
- Ⓑ VVF2.0-3C(冷媒管共巻き)
- Ⓒ VVF2.0-3C(冷媒管共巻き)
- Ⓓ VVF2.0-3C(冷媒管共巻き)

- GHP 3-1  
1φ200V 42W
- GHP 3-1  
1φ200V 42W
- GHP 3-1  
1φ200V 42W
- GHP 3-1  
1φ200V 42W
- GHP 3-1  
1φ200V 42W
- GHP 3-2  
1φ200V 103W
- GHP 3-2  
1φ200V 103W



3階平面図 S: 1/200

工事対象範囲

VWF2.0-3C(1C,E)  
 (※冷媒管同一ルートは冷媒管共巻きとする)